

- 一 検査所ハ可成閑静ニシテ日光ノ能ク透入スル所ヲ選定スル事
- 一 検査所ノ表口見易キ位置ニ紙札ヲ以テ「海軍志願兵検査所」ト標記スル事
- 一 検査所列席者ノ席次ハ凡別岡ノ如クスル事
- 一 検査所列席者ノ背後若ハ卓子前面適宜ノ位置ニ列席者ノ官職名ヲ標記シタル紙札ヲ貼付スル事
- 一 受検者ノ集合所ヲ賦畫スルカ若ハ別ニ設クル事
- 一 検査所ニハ左ノ器具ヲ備フル事
 - (一) 身長測定ニ要スル尺度
 - (二) 體重權衡
 - (三) 洋術ニシテ重量二十二貫目迄ヲ測リ得ルモノヲ要ス
 - (四) 懸垂力試験装置
 - (五) 梯子ヲ検査所内ノ側壁ニ斜ニ立掛ケ適宜ノ一索ヲ環狀ニ垂下シ索ト床トノ間隔ヲ六尺トスル事但シ室内ノ構造梯子ヲ要セザルトキハ唯索ノミヲ備フル事
 - (六) 屏 風
 - (七) 二枚折リニテ宜シ軍醫官ノ隣部ニ設診所ヲ賦畫スル爲メ備フル事
 - (八) 火鉢若クハ暖爐
 - (九) 検査ノ時季ハ概ネ冬季ニ屬スルヲ以テ成ルヘク室内ヲ溫暖ニシテ検査ニ便ナラシムル事殊ニ軍醫官ノ附近ニハ最モ大ナル火鉢ヲ備フル事
 - (十) ヲツブニ筒、手洗鉢、石鹸、水入、手拭
 - (十一) 軍醫ノ附近ニ備フル事
 - (十二) 列席者ノ卓上ニ備フル事
 - (十三) 列席者ノ卓上ニ備フル事
 - (十四) 學術受検用トシテ卓子腰掛二三脚及答案用紙(適宜)ヲ備フル事
- 受検者心得
 - 一 受検者ニハ検査施行前ニ於テ左記各項ヲ示達シ置ク事
 - 二 検査開始時三十分前ニ必ス検査所ニ集合スル事
 - 三 検査所ニ參著ノ後ハ検査終了迄兵事官ノ許可ナクシテ外出セザル事
 - 四 検査前日必ス入浴シ殊ニ耳垢ヲ掃除シ且鼻ノ内其他不潔ニ流レ易キ部分ヲ充分清潔ニシ検査ニ便ナラシムル事

五 検査前日ヨリ飲酒ヲ禁シ且検査前夜ニ於テ夜深シ等チナサス安眠スル事

六 検査所ニ在リテハ限リニ談話等チナサス最モ静肅ヲ旨トスル事

軍醫官ノ席次ハ日光ノ透入能キ處ヲ選フコトノレカ爲メ兵事官席左右兩列ノ席次ヲ轉替スルモ妨ケナシ	中津輕郡長 下北郡長
軍醫官ノ席次ハ日光ノ透入能キ處ヲ選フコトノレカ爲メ兵事官席左右兩列ノ席次ヲ轉替スルモ妨ケナシ	計長身
軍醫官ノ席次ハ日光ノ透入能キ處ヲ選フコトノレカ爲メ兵事官席左右兩列ノ席次ヲ轉替スルモ妨ケナシ	體重權衡
軍醫官ノ席次ハ日光ノ透入能キ處ヲ選フコトノレカ爲メ兵事官席左右兩列ノ席次ヲ轉替スルモ妨ケナシ	者 願 志

横須賀鎮守府兵事官ヨリ申越ノ次第モ有之候ニ付自今検査場設置セラレタル場合ハ別紙ニ依リ準備相成度候
(別紙ハ前文ト同一ニ付省略ス)

● 第二款 召集徴發
● 在郷軍人名簿及第一國民兵

明治四十二年六月十五日
訓令甲第三十五號
郡役所、市役所、町村役場

● 横須賀鎮守府召集區内海軍召集事務取扱規程

- 明治四十三年六月三日
訓令甲第四十四號
郡役所、警察署、警察分署、市役所、町村役場
- 横須賀鎮守府召集區内海軍召集事務取扱規程左ノ通定メラル
但明治三十三年七月本縣達第四十三號及第四十四號ハ之ヲ廢止ス
- 第一章 總 則
- 第一條 本規程ハ海軍召集條例及同施行細則ニ基キ横須賀鎮守府召集區内官衙並公署ニ於ケル海軍豫備役後備役下士卒ノ召集ニ關スルコトヲ定ム
- 第二條 本規程中條例トアルハ海軍召集條例、細則トアルハ海軍召集條例施行細則ヲ謂フ
- 第三條 召集事務ニ關シ責任ヲ有スル官吏ハ召集實施取扱手續ヲ定メ召集ニ關シ白ラ計畫準備シタル事項ヲ記入シ置キ召集實施ニ際シ事務ノ簡捷ヲ圖ルヘシ
- 第四條 町村長ハ海軍豫備役後備役下士卒ヨリ鎮守府司令官若ハ海軍人事部長宛ノ願書ヲ受ケタルトキハ總テ所轄郡長ヲ經由スヘシ
- 第五條 官衙並公署ニ於テ應召員身上ニ關スル願書ヲ受ケ之ヲ鎮守府若ハ海軍人事部長ニ轉致スルトキハ該願書ノ餘白ニ發受年月日發受番號官衙公署名ヲ附記シ主任者捺印スルモノトス
- 第二章 召集準備
- 第六條 召集ニ關スル準備書類ニハ平時ニ於テ不動文字ヲ悉ク記註シ置クヘシ
- 第七條 郡市長ハ細則第二十四條ニ依リ他郡市(横須賀鎮守府召集區内)應召ノ届出ヲ受ケ召集令狀ヲ當該郡市長ニ移送スルトキハ其召集名簿寫ヲ添フヘシ

- 又海軍人事部長ニ送附スヘキ届書餘白ニハ「召集令狀移送済」ト附記スルモノトス
- 第八條 郡市長ハ條例第二十二條第一項但書ニ依リ應召者ニシテ他郡市(寄留換ノ届書ヲ受ケタルトキ)ハ召集令狀ヲ其ノ本籍郡市長ニ移送スヘシ
- 第九條 郡市長ハ外國、臺灣、樺太ニ在留應召ノ届書ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀及演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ送附スヘシ
- 第十條 郡市長ハ外國、臺灣、樺太ニ在留(旅行、渡航、航海共)ノ届書ヲ受ケタルトキ及海軍人事部長ヨリ演習召集令狀ヲ通知シ受ケタルトキハ演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ送附スヘシ但船舶乗組ノ者ハ其ノ常駐外國、臺灣、樺太間ノ港灣ニシテ内國港灣ニ寄泊セザルモノニ限ル
- 第十一條 郡市長ハ條例第二十二條第一項但書ニ依リ應召者ニシテ外國臺灣、樺太ニ在留ノ届書ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ其ノ本籍郡市長ニ移送シ演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ送附スヘシ
- 第十二條 郡市長ハ第一國民兵役編入、免除、死亡、失踪宣告、死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者等アルトキハ充員召集令狀及演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ送附スヘシ
- 第十三條 召集名簿ハ左記各號ニ依リ整理スヘシ
- 一 豫備役後備役召集名簿ハ各別冊トシ更ニ編入年別、兵種別ニ區分スヘシ
- 二 應召員多キトキハ編入年別及兵種毎ニ各別紙ニ認メ應召員少ナキトキハ編入年別兵種毎ニ相當ノ間隔ヲ置キ一紙中ニ列記スルモ妨ナシ
- 三 記載ノ順序ハ編入ノ月日古キモノヨリ順次新シキモノニ及ホスナ例トス
- 四 後備役召集名簿ニハ欄外上部ニ豫備役編入ノ日即チ現役ヲ離レタル年月日ヲ記入スヘシ
- 五 寄留應召、船搭港應召若ハ選航港應召ノ者ハ朱書スヘシ
- 六 第一國民兵編入、免官、免役、死亡、失踪宣告、死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及他郡市(應召ノ者等アルトキ)ハ別紙ニシテ
- 七 住所及改姓等ノ異動アルトキハ直ニ訂正スヘシ

八 召集通報人ヲ定メタルモノハ住所ノ上ニ第九様式ニヨル符箋ヲ貼
附シ置キ歸郷シタルトキハ除去スルモノトス

九 演習召集、簡四點呼免除ノモノ又ハ所在不明ノモノハ前號ニ準シ
附箋シ置クモノトス

一〇 海軍下士卒服役條例第十六條ノ二ヨリ豫備役編入ノモノハ其旨
記事欄ニ記入スヘシ

一一 削除スヘキモノハ朱線ニ條ヲ並行ニ引キ記事欄ニ其ノ理由ヲ記
入シ置クヘシ

第十四條 召集令狀ハ左記各號ニ依リ整理スヘシ

一 豫備役後備役ニ編入年別ニ區分シ帶封ナシ置クヘシ

二 豫備役ヨリ後備役ニ編入ノモノ又ハ住所及改姓等ノ異動アルトキ
ハ其ノ都度直ニ訂正スヘシ

三 召集通報人ヲ定メタルモノハ封筒表面ニ第九様式ニヨル附箋ヲ貼
附シ置キ歸郷シタルトキハ除去スルモノトス

第十五條 郡長ハ管下町村役場ニ於ケル名簿ノ記入及其ノ異動事項訂正
ノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ告知スルモノトス但關係書類當該町村
ヲ經由スル場合ヲ除ク

第十六條 町村長ハ豫備役後備役下士卒名簿ヲ調製シ第十三條(第一、二
ノ除)ニ準シ整理スヘシ但名簿ノ記入及異動事項訂正ハ郡長ノ告知及
應召員ノ願届ニ依リナスモノトス

第十七條 郡市長ハ國道又ハ縣道ニ沿ヒ應召員ノ多數通過スヘキモノト
認メタル市町村ニ就キ海軍軍用旅舎ヲ選定(郡長ハ町村長ヲ)シ之ヲ知
事ニ報告シ又憲兵隊長警察署長警察分署長ニ通知スヘシ其ノ異動ヲ生
シタルトキ亦同シ

第十八條 召集用使丁ノ契約ハ毎年度改メ且之ヲ契約スルニ方リテハ身
體健全且文字ヲ解スルモノヲ選定スルモノトス

第十九條 召集用具ハ使丁配置方面ノ數丈ケ準備スルモノトス

第二十條 召集準備書類器具ニシテ充員及演習ニ供用シ得ヘキモノハ特
ニ演習ノタメ準備ヲ要セス

第二十一條 官符並公器ニ於テ準備スヘキ書類及器具左ノ如シ
道廳、府縣廳、警視廳

一 召集令狀書 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

二 召集令狀ニ對スル返電 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

三 海軍軍用旅舎名簿 (道廳、府縣廳ノミ)
(第八様式道廳、府縣廳ノミ)
(細則様式第一但寸法適宜)

四 海軍軍用封筒 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

五 海軍召集日記 (道廳、府縣廳ノミ)
(第八様式道廳、府縣廳ノミ)
(細則様式第一但寸法適宜)

六 海軍召集關係書類 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

七 海軍召集關係書類目録 (道廳、府縣廳ノミ)
(第八様式道廳、府縣廳ノミ)
(細則様式第一但寸法適宜)

八 海軍召集關係書類目録 (道廳、府縣廳ノミ)
(第八様式道廳、府縣廳ノミ)
(細則様式第一但寸法適宜)

九 海軍召集日記 (道廳、府縣廳ノミ)
(第八様式道廳、府縣廳ノミ)
(細則様式第一但寸法適宜)

一〇 海軍召集日記 (道廳、府縣廳ノミ)
(第八様式道廳、府縣廳ノミ)
(細則様式第一但寸法適宜)

一一 召集令狀送付書 (第七様式)

一二 使丁配置(第五様式)、使丁契約書、心得書 (第十様式)

一三 提燈、革靴、使丁證書 (第十様式)

一四 海軍召集旅費領取證書 (支用規程)

一五 召集令狀寫(令狀表面ノミ) (第四様式(市役所ノミ))

一六 海軍召集關係書類 (四十二年五月海軍省告示第八號
ニ依リ編製ノ減價乘車券ヲ要スル
者ニ令狀ト共ニ交付スルモノ)

一七 海軍召集關係書類目録 (第四様式(市役所ノミ))

一八 海軍軍用旅舎名簿 (第四様式)

一九 海軍軍用封筒 (第四様式)

二〇 海軍召集日記 (第四様式)

二一 豫備役後備役下士卒名簿(細則様式第四ニ準ス但豫備役後備役ニ
編入年別ニ區分ナシ置クモノトス)

二二 召集令狀交付シタルモノ及交付シ能ハサルモノ、人名通知書

三 海軍軍用旅舎名簿 (第六様式)

四 海軍軍用封筒 (第八様式)

五 海軍召集日記 (細則様式第一但寸法適宜)

六 海軍召集旅費領取證書 (支用規程第四様式)

七 使丁配置 (第五様式ニ準ス)

八 海軍召集關係書類 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

九 海軍召集關係書類及物件目録 (第八様式)

一〇 警察署、警察分署 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

一一 召集令狀書 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

一二 召集令狀ニ對スル返電 (自第一様式ノ一)
(至第二様式ノ四)
(發信者受信者ノ官名ノ
ミ記入シ置クモノトス)

一三 海軍軍用旅舎名簿 (第八様式)

一四 海軍軍用封筒 (細則様式第一但寸法適宜)

一五 海軍召集日記 (細則様式第一但寸法適宜)

一六 海軍召集關係書類 (細則様式第一但寸法適宜)

一七 海軍召集關係書類目録 (細則様式第一但寸法適宜)

第三章 充員召集實施

第二十二條 召集令狀面ニ記入スヘキ到着日時ハ發令ノ日ニ到着豫定日
數ヲ加ヘタルモノトス

例ハ某月一日發令ノトキ到着豫定日數三日ナレハ到着日ハ其ノ月四
日トナリ發令午前ナレハ午前、午後ナレハ午後トナルカ如シ

第二十三條 召集令狀ノ交付ヲ受クルモ事故ノ爲メ出發シ難キ者事故止
ミ再ヒ交付スル場合ニ於テ令狀面ニ記入スヘキ到着日時ハ發令ノ日ニ
到着豫定日數ヲ加ヘタル外更ニ事故延滞日數ヲ加ヘタルモノトス

例ハ某月一日午後發令ニシテ二日ノ後事故止ミタルトキハ到着豫定
日數五日ナレハ到着日時ハ其ノ月八日午後トナルカ如シ

第二十四條 召集令狀表面ノ明治年月日ハ記入ノ當日ヲ記スルモノトス

第二十五條 町村長ハ召集令狀ヲ交付シタルモノ、人名及交附シ能ハサル
モノ、人名事由ヲ郡長ニ報告シ同時ニ所在憲兵、警察官吏ニ通知ス
ヘシ郡市長ハ召集令狀ヲ交付シタルモノ、人名及交附シ能ハサルモノ
、人名事由ヲ記シ細則第三十八條ノ召集封筒ト共ニ之ヲ海軍人事部長

ニ通知スヘシ

第二十六條 郡市長ハ全家所在不明等ノ爲メ交附シ能ハサル召集令狀又
ハ交附ヲ受クルモ止テ得サル事故ノ爲メ出發シ難キモノ、召集令狀ヲ
保管中細則第四十條第二項但書ニ依リ發程ヲ差止ムヘキ途テ受ケタル
トキハ之ヲ海軍人事部長ニ返附スヘシ

第二十七條 警察官吏第二十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ事由
ヲ調査シ海軍人事部長ニ通知スヘシ

第二十八條 郡市長ハ海軍人事部長ヨリ應召員海兵團到着後身體検査ニ
於テ服務ニ堪ヘスト認メ召集令狀ヲ解キ歸郷ヲ命セラレタル者ノ通知ヲ受
ケタルトキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ市町村長ハ之ヲ所在憲兵、警察官吏
ニ通知スヘシ

第二十九條 郡市長ハ海軍人事部長ヨリ充員召集解除ニ際シ傷病、疾病
犯罪、逃亡其ノ他ノ事故ニ依リ歸郷セシムルコト能ハサル者ノ通知ヲ
受ケタルトキハ郡長ハ町村長ニ市町村長ハ之ヲ本人ノ家族ニ通知スル
モノトス

第四章 充員召集解除

第三十條 充員召集解除セラレタル應召員ニ對シテハ海軍下士卒服役
條例第二十七條ヲ準用スヘシ

第五章 演習召集實施

第三十一條 演習召集實施ニ關シテハ第三章(第二十六條)ヲ除クノ各條
ヲ準用ス

第三十二條 郡市長ハ全家所在不明ノ爲メ召集令狀ヲ交附シ能ハサルモ
ノニシテ演習ノ前中期ヲ經過シタルモノ及條例第四十七條但書該當者
ノ召集令狀ハ直チニ海軍人事部長ニ返付スヘシ

第六章 簡四點呼

第三十三條 市町村長ハ全家所在不明等ノ爲メ點呼令狀ヲ交附シ能ハサル
モノアルトキハ其ノ人名及事由ヲ附シ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ點呼
執行官ニ差出スヘシ

第三十四條 市町村長ハ點呼令狀ヲ交附シ能ハサルモノアルトキハ其ノ封筒ヲ取
綱メ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ點呼執行日時ニ點呼執行官ニ差出スヘシ

第七章 雜則

第三十五條 海軍召集關係書類簿冊ハ充員召集演習ト各別ニ區分シ
各自録ヲ附シ鎖鑰ヲ有スル箱ニ保管シ海軍召集關係ナキ者ヲシテ開

覽セシム可ラス
 第三十六條 郡市長ハ毎年四月一日現在ノ召集名簿ヲ調製シ之ヲ四月末日迄ニ海軍人事部長ニ送附シ該人事部長ノ名簿ト照合シ置クモノトス
 第三十七條 官衙公署ニ於テ召集令狀其ノ他召集ニ關シ重要ナル書類ヲ郵送スル場合ハ必ス書留郵便ニ附スルモノトス
 第三十八條 市町村長ハ海軍豫備役後備役下士卒ヲシテ其ノ居宅ノ見易キ所ニ在郷海軍軍人何某ト書シタル門札ヲ掲ケシムヘシ

第二様式ノ一 「用紙美濃野紙」以下皆同シ

充第 號 海軍豫備役後備役軍人ノ充員召集令セラル

明治 年 月 日 (地方長官)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖

第一様式ノ二 備役下士卒ノ充員召集令セラル

明治 年 月 日 (地方長官)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖

第一様式ノ三 月以後現役ヲ離レタル海軍 備役下士卒ノ充員召集令セラル

明治 年 月 日 (地方長官)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖

第二様式ノ一 (地方長官)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖

演第 號 日午 月 日ヨリ 日間 演習施行ノタメ海軍豫備役後

備役軍人ノ演習召集令セラル

明治 年 月 日

第三様式 (第一、第二様式ノ電文記載例)

ハチ(八)ニチゴセンサンシウサン(三三)ホシシ(四)カツイゴゲン

キナナレタルカイケンヨビエキカシツノシウインノシヨウシウ

ナレイセラル、アイチケンチ

一 電文中ノ數字ハ凡テ假名ヲ以テ記シ其ノ下ニ本例ノ如ク括弧内

ニ日本數字ヲ附記スルモノトス

二 發信番號及發信年月日ハ記入ヲ要セス

三 發信者ノ官名又ハ職名ノミヲ記シ氏名ハ省略スルモノトス

第二様式ノ二 (地方長官)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖

演第 號 日午 月 日ヨリ 日間 演習施行ノタメ海軍 備役

下士卒ノ演習召集令セラル

明治 年 月 日

第二様式ノ三 (地方長官)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖

演第 號 日午 月 日ヨリ 日間 演習施行ノタメ海軍 備役

以後現役ヲ離レタル海軍 備役下士卒ノ演習召集令セラル

明治 年 月 日

第二様式ノ四 (地方長官)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖

演第 號 日午 月 日ヨリ 日間 演習施行ノタメ海軍 備役

以後現役ヲ離レタル海軍 備役下士卒ノ演習召集令セラル

明治 年 月 日

第三様式 (第一、第二様式ノ電文記載例)

ハチ(八)ニチゴセンサンシウサン(三三)ホシシ(四)カツイゴゲン

キナナレタルカイケンヨビエキカシツノシウインノシヨウシウ

ナレイセラル、アイチケンチ

一 電文中ノ數字ハ凡テ假名ヲ以テ記シ其ノ下ニ本例ノ如ク括弧内

ニ日本數字ヲ附記スルモノトス

二 發信番號及發信年月日ハ記入ヲ要セス

三 發信者ノ官名又ハ職名ノミヲ記シ氏名ハ省略スルモノトス

發令ノ日 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一

被召集員到着豫定日數	日六	日七	日八	日九	日十	日十一	日十二	日十三	日十四	日十五	日十六	日十七	日十八	日十九	日二十	日二十一	日二十二	日二十三	日二十四	日二十五	日二十六	日二十七	日二十八	日二十九	日三十	日三十一
四六、九、十一月ノ到着日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
平年二月ノ到着日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
閏年二月ノ到着日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

備考 一 本表中ノ被召集員到着豫定日數ハ假定ノモノナリ

二 本表ハ鎮守府ヨリ送附ノ被召集員到着豫定表ニ依リ調整スルモノトス

第五様式 使丁配置

使丁差立方面	町村名	往復里數	出發ヨリ歸着迄ニ要スル豫定時間	使丁員數
第一方面	何何何村	何里	何時間	一
第二方面	何何何村	何里	何時間	一

第三方面	何何何村	陸路	何里	何時間
------	------	----	----	-----

備考 使丁差立ノ順序ハ最遠距離ノ町村ヲ先ニスルモノトス

第六様式

海軍人事部長(何憲兵分隊長)(何郡長)(何警察署長)氏 名圖
 召集令狀交付ニ關スル件

理由	住所	官職氏名
何郡何町何番地 何郡何町何番地	同村 何番地	豫備役海軍一等水兵何某
交付済	同村 何番地	同 海軍一等機關兵何某
同	同村 何番地	後備役海軍一等看護何某

右通知(報告)ス
第七様式

明治 年 月 日

何町村長 氏 名 何 郡 長 氏 名 園

一、充員(演習)召集令狀
右送附ス

追テ受領取極メ送附スヘシ
第八様式

海軍軍用旅舎名簿

住 所	屋 號	室 數	疊 數	氏 名
何郡何町何番地	何屋 〇	五	三〇	何 某

第九様式

何郡何町村へ寄留

何町(何村)何番地

召集通報人 何 之 某

何縣巡查奉職中

演習召集簡閱點呼免除

第十様式

使了證書 (木製) (寸法適宜)

軍事使了證書

官署印

此者ハ在郷軍人召集ノ使了ニシテ
携帶セル者類ハ軍事上極メ大切
ナルモノナルカ故ニ途中ニ於テ
損傷受ケルハ疾病ニ罹リタルコト
ヲ發見シタルハ能ク保護シ與ヘ
テ發見ノ時ハ速ニ檢査シ直ニ
村役場ニ届出テラレヘシ

召集事務ヲ主管スル在郷軍人報告方

明治四十一年五月四日
訓令乙第百六十四號

陸軍豫備役後備補充兵役ニ在ル者ニシテ其管内ニ居住シ郡市長、町村
長、市町村助役、同收入役、帝國議會ノ議員并召集事務ヲ主管スル郡市
町村書記タルモノヲ調査シ毎年九月十五日迄ニ左ノ様式ニ依リ縣廳ニ報
告シ爾後翌年ノ報告期迄ニ新任轉免等ノ異動アルトキハ其ノ都度報告ス
ヘシ

但明治三十三年八月連官第三百十八號連ハ之ヲ廢止ス
明治四十一年訓令乙第百六十四號ニ依リ報告

任官就職年月日	現官職名	役種官級	徵集年	本籍	氏名
何年何月何日	何	豫歩軍	何年	何縣何市何町何番地	何 某
同	同	後騎一	同	同	同
同	同	補騎輪	同	同	同

知事宛 郡市長

備考
一、「役種官等級」ノ欄ニ於ケル「豫歩軍」トハ豫備役歩兵軍曹ヲ略シ
タルナリ以下之ニ依リ
二、異動報告ニ在リテハ「任官就職年月日」ノ欄ニ「新任轉免年月日」
ニ改ムヘシ

徵發物件取調方

明治三十三年十二月十八日
連 第 七 十 七 號

郡役所、市役所、町村役場

徵發物件取調方ノ件左ノ通り相定ム
但明治三十二年二月本縣連第七號及同二十三年十一月同第七百二十號ハ廢
止ス

第一條 市町村長ハ明治三十三年十一月陸軍省令第三十九號ニ於ケル甲號
及乙號ノ様式ニ據リ隔年毎ニ徵發物件表ヲ調製シ市長ハ三月十日迄ニ
縣廳へ差出シ町村長ハ二月二十日迄ニ郡長へ差出シ郡長ハ之ヲ取極メ
一郡總計表ヲ三月十日迄ニ縣廳へ差出スヘシ
第二條 前條ノ徵發物件表ハ明治三十三年十二月末日調テ以テ第一回ト
シ明治三十五年十二月末日調テ第二回トシ爾後之ニ準シ調製差出スヘシ
第三條 市町村長ハ明治三十二年一月海軍省令第四號及同年十月同省令
第十二號ノ様式ニ依リ毎年工場表及汽船表ヲ調製シ市長ハ二月末日
迄ニ縣廳へ差出シ町村長ハ二月十五日迄ニ郡長へ差出シ郡長ハ之ヲ取
極メ一郡總計表ヲ三月十日迄ニ縣廳へ差出スヘシ但新造若クハ

馬匹調査及檢査施行規則改正ノ件

明治四十二年十月二十九日
訓令甲第百四十五號

郡役所、市役所、町村役場

本年七月二十六日陸軍省令第十二號及同年十月八日同省令第十五號ヲ以
テ馬匹調査及檢査施行規則ノ全部ヲ改正セラレ本年十一月一日ヨリ實施
スルコトナレリ
此ノ改正ハ可成郡市町村長及馬所有者ノ手致ヲ減省スルト同時ニ馬ノ調
査ヲ精確ニシ以テ有事ノ日ニ於ケル軍事上ノ準備ヲ確實ナラシムトス
ルノ主旨ニ外ナラスシテ毎年二期ニ差出スヘキ馬匹出入表ヲ全廢シタル
カ如キ馬所有者ノ届出ニ一定ノ書式ヲ要セス口頭ヲ以テスルモ差支ナキ
コトニ改メタルカ如キ又ハ三歳以下ノ馬ヲ全ク調査及檢査セス四歳以上
ノ馬ト雖モ檢査ノ結果永久軍馬タルノ資格ナシト認定シタルモノハ爾後
再ビ檢査セザルヲ得ルニ至リタルカ如キ即チ其ノ手致ヲ減省シタルモノ
ニシテ調査ヲ精確ナラシムカ爲ニハ新タニ馬名簿ヲ調製スルコトニ規
定セラレタリ馬名簿ノ調製ハ實ニ市町村長ノ事務ヲ増加シタルモノナル
モ一タヒ此ノ名簿ヲ整理シ其ノ加除訂正ヲ怠ラサルニ於テハ從來ノ如ク
毎年同部ノ新材料ニ依リ調査表及出入表ヲ調製シタルニ比シ却テ亦手致
ヲ減少シタルノミナラス該名簿ハ一面ニ於テ馬ノ資格ヲ表シ且證明ト
ナリ外而ノ狹狹手段ヲ豫防スルコトヲ得ヘシ要スルニ馬名簿ノ整理如何
ハ軍事上ニ及ボス所頗ル大ナルモノアリ其ノ結果ハ直ニ國家ノ利害ニ
關係スルナリ以テ篤ク此ノ點ニ留意シ馬所有者ヲシテ其ノ手致ヲ減省シ無
出テ怠ルコトナカラシムヘキ其ノ取扱方ニ於テモ徒ラニ舊例ヲ遵守シ無
益ノ煩勞ヲ課スルカ如キコトヲ避ケ確實迅速ニ届出得ヘキ簡易ノ手段ヲ
執リ敢テ遺漏ノモノナキコトヲ期シ且改正規則第五條及第六條ノ規定ハ

正確ニ之ヲ實行シ馬名簿ノ調製保管及加除訂正等ニ關シ荷モ疎漏難ニ
流ル、カ如キコトナカルヘシ尙ホ馬所有者ヲシテ留意セシムヘキハ刑法
ノ改正ニ伴ヒ本規則ノ制定モ亦著シク重キヲ加ヘタルコトナリ須ク五ニ
相成メ決シテ心得進ノ所爲アラシムヘカラス

汽船表及工場表調製

明治四十三年九月二十八日
内務部長通牒青兵發第十八號ノ三
郡 市長

汽船表及工場表ニ關スル件通牒

改表調製方ニハ今回其筋ヨリ別紙ノ通り通牒被越候條御承知相成度尙ホ
汽船表様式ハ本年七月海軍省令第七號ヲ以テ改正(本年八月十日ノ官報
ニテ正誤)セラレ候條爲念申添候

追テ別紙ニ三十九年十二月軍第三八四號云トアルハ同年十二月十二
日二發第三四一二號通牒ト御承知相成度候

(追書ハ下北郡ニ限リ附記ス)

軍第三一五號

明治四十三年九月十五日

海軍省軍務局長 枋内曾次郎

道廳長官、府縣知事

徵發事務條例第二十五條ニ依リ提出相成候汽船表及工場表ノ精査ハ軍事
計畫上ニ影響スル所被ナカラス候處年提出ノモノヲ調査スルニ不完全
ナルモノ多クシテ借贖シ難キモノ有之(依テ茲ニ明治三十九年十二月軍
第三八四號ヲ以テ御照會致置候次第ニシテ爾後稍眞面目ニ調査セル形跡
ヲ認メラレ候ヘ共尙多數不備ナルモノ有之爲メ少數完備ナルモノモ大
多數不完備ナルモノニ蔽ハレ)多大ノ努力ヲ費ヤシテ蒐集シタル貴重ノ
材料モ其價值鮮少ナルニ至リ候ノミナラス之レカ照會往復等ノ爲メ非常
ナル手数下時日ヲ要シ頗ル遺憾ノ儀ニ候條當該事務分擔者ヲシテ一層正
確ナル調査ヲ遂ケケラル、模御取計相成度依命此段申進候也

追テ從來ノ汽船表様式ハ本年七月二十五日官報第八一七號五二五、
一五二七頁)ヲ以テ改正並八月十日官報第八一四一號(一六二頁)ヲ以
テ正誤相成候條爲念申添候

尙又本年度提出相成候汽船表ハ符號ノ通りニ付至急調査ノ上御回附ヲ
得度(別紙ハ調査ノ通牒トモ認ムヘキモノナ被査シ御參考ニ供シ候)

調査上通牒トモ認ムヘキモノ被査

項目	名
船名	船名字體ノ誤記アルモノアリ正確ナルヲ要ス
調査年月日	調査年月日ハ毎年十二月三十一日ノ現在汽船ニ就キ同 日現狀ヲ報告スヘキモノナルニ四十二年度ノ報告即チ 四十二年十二月三十一日調査ノモノニ明治三十五年七 月調査其他數年前ノ年月日ヲ記入セルモノアリ之レ等 ハ報告調製ニ當リ實際調査セスシテ原本等ヨリ其儘照 寫シタルモノナルヘシ最モ不親切ナルモノトス
本船ノ番號信號	誤記ノモノ多シ
符號	往來誤記ノモノアリ
乾舷	不明トシ又ハ過大過小ニシテ一日其誤リナルヲ知ルヘ キモノアリ
使用ノ目的	旅客船貨物船等ノ區別ヲ記入シアラサルモノアリ又旅 客船ニシテ旅客定員ノ記入ナキモノアリ
橋	橋ノ數異ナルモノアリ或ハ其高サヲ記入セサルモノア リ又橋數ノ變更アルモノ從來ノ儘ヲ認寫シ訂正セサルカ 如キモノアリ
煙突	煙突ノ數記入ナキモノアリ或ハ甚シキハ「ナシ」ト記入 スルモノアリ
補助汽機ノ種類	種類及數ヲ記入シ最大汽機ヲ記入セサルモノアリ
推進器ノ種類	外車螺旋ノ區別判明ナラサルモノアリ又其數記入シ アラサルモノアリ
艙水容量	「ナシ」或ハ不明ト記入セルモノ多シ艙水容量ノ判明セ サルモノアルノ理由ヲ要スルニ記入ナシ等附スル カ故ナラン
揚貨機	數及力ヲ記入スルノミニシテ「アツク」ノ數及長サヲ 記入セサルモノ多シ
上甲板	開口ノ數及太サヲ記入ナキモノ多シ

吃水 吃水線ヨリ
乾貨 乾貨上端迄ノ高
サ
曳船 曳船置有無
速力 速力
製造 製造年月
石炭 石炭容量
清水 清水貯置
貯置
其他

「ナシ」ト記入シタルモノアリ等附モ甚シ
「ナシ」ト記入アルモノ多シ
記入シアラサルモノ多シ明力ニ有無ヲ記入スルヲ要
ス

第三款 豫備後備在郷軍人及廢兵
陸軍現役下士卒休暇調查方

明治三十四年七月二十六日
訓示 第十三號

陸軍軍人休暇規則第十七條ニ依リ下士以下父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ親
族ニ於テ本人ノ歸郷願書ヲ作リ市町村長ノ與書證印ヲ受ケンコトナ出願
スル者アルニ際シ市町村長ハ實際ノ事實ヲ査察セシメテ之ヲ與フルコト
往來有之哉ニ相聞ヘ候處右ノ當ニ其ノ職責ヲ盡ササルノミナラス軍隊ニ
及ホスノ弊害亦容易ナラサルニ付將來特ニ嚴密ナル調査ヲ遂ケ事實止ム
ヲ得サル者ニ限リ與書證印ヲ與フヘシ

在郷陸軍下士卒制服着用ノ場合

明治三十五年二月十一日
告示 第三十六號

在郷陸軍下士卒卒ハ左ノ場合ニ限リ制服着用スルコトヲ得
一 滿期歸郷ノトキ
二 召集若クハ簡閱點呼ノトキ
三 演習及觀兵式參觀ノトキ

四 賀儀葬祭ノトキ
五 以上掲ケルモノノ外在郷軍人ノ資格ヲ表スルトキ

召集中ニアラサル豫備後備役海軍
下士卒制服着用ノ場合

明治三十五年二月十一日
告示 第三十七號

召集中ニアラサル豫備後備役若クハ後備役海軍下士卒ハ左記ノ場合ニ限リ可
成制服着用スヘシ
一 滿期歸郷ノトキ
二 行幸行啓ニ際シ奉迎奉送スルトキ
三 召集若クハ簡閱點呼ノトキ
四 觀兵式觀艦式若クハ演習ヲ陪覽スルトキ
五 賀儀葬祭ノトキ
六 前階號ノ外軍人ノ資格ヲ表スルトキ

海軍豫備後備役下士卒諸願屆書式

明治四十一年五月二十五日
內務部長通牒兵社第六百八十九號

今般須賀鎮守府ニ於テ海軍豫備後備役下士卒諸願屆書式改正セラレ候ニ
付別冊改正書式(冊送附候)條貫管內各町村ヘ配付相成度候也
(弘前、青森兩市役所ヘハ「内ヲ除ク」)

在郷海軍豫備後備役下士卒諸願屆書式
(用紙半紙以下同シ)

一 豫備役編入月日 何月何日
一 歸郷月日 何月何日
右及御届候也

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫備役 官職氏名 附
注意

●本籍市町村長經由ヲ要ス

- 一 豫備役編入月日 何月何日
- 一 滞在(旅行)地 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地何方
- 一 滞在(旅行)期間 何月何日ヨリ何月何日迄
- 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫備役 官職氏名
住所何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
召集通報人 氏名

横須賀鎮守府兵事官御中
注意 本籍市町村長經由ヲ要ス
本屆ハ現役滿期退願等ノ途次滞在(旅行)ノ場合ニ用

寄留(旅行)届

- 一 寄留月日 何月何日
- 一 寄留(旅行)地 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地何方
- 一 旅行豫定期間 何月何日ヨリ何月何日迄
- 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
住所何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
召集通報人 氏名

横須賀鎮守府兵事官御中
注意 本籍市町村長經由ヲ要ス
寄留ト同時ニ寄留應召届出ノ者ハ寄留届ヲ要セ

寄留替届

- 一 寄留替年月日 何年何月何日
- 一 舊寄留地 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
- 一 新寄留地 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
- 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
住所何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
召集通報人 氏名

注意 本籍市町村長ノ奥書印ヲ受クヘシ
本籍市町村長經由ヲ要ス

兵籍異動届

- 一 異動發生年月日 何年何月何日
- 一 異動事項 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地へ移轉(分家)ス
何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地何誰へ養子縁組ヲナス
父母兄弟姉妹某死亡(出生)ス
妻某離婚ス
- 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
横須賀鎮守府兵事官御中
注意 本籍市町村長經由ヲ要ス
分家、養子縁組等ニハ入籍先キノ戸籍簿本添付ヲ要ス
同一戸籍内ノ異動ハ此ノ例ニヨリ届出ツヘシ

寄留(替)應召届

- 一 寄留(替)年月日 何年何月何日
- 一 寄留(替)應召地 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
- 一 寄留替應召地 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
- 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
横須賀鎮守府兵事官御中
注意 本籍(舊)應召地 郡市町村長經由ヲ要ス

本籍地復歸届

- 一 復歸年月日 何年何月何日
- 一 寄留(旅行)地(船籍、運航港) 何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
- 一 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
召集通報人 氏名

●本籍市町村長經由ヲ要ス

- 一 乘(退)船年月日 何年何月何日
- 一 船名 何會社
- 一 船名 何丸運轉士(機關士ニ水夫ニ火夫ニ割差)
- 一 航路 何間航海
- 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
住所何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
召集通報人 氏名

横須賀鎮守府兵事官御中
注意 本籍市町村長經由ヲ要ス
寄留替ト同時ニ寄留應召届出ノ者ハ本屆ヲ要セ

寄留(渡航)届

- 一 在留(渡航)豫定期間 自何年何月何日 至何年何月何日
- 一 在留(渡航)地 北米合衆國 紐約州シヤトル市レイン街東北人會
- 一 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
住所何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
召集通報人 氏名

横須賀鎮守府兵事官御中
注意 應召地ノ郡市町村長經由ヲ要ス
退船届ニハ召集通報人ノ連署ヲ要セス又航路ノ記入ヲ要セス

外國在留(渡航)届

- 一 在留(渡航)豫定期間 自何年何月何日 至何年何月何日
- 一 在留(渡航)地 北米合衆國 紐約州シヤトル市レイン街東北人會
- 一 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
住所何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
召集通報人 氏名

注意 舊應召地 郡市町村長經由ヲ要ス

處刑届

- 一 宣告裁判所名及年月日 何年何月何日何裁判所宣告
- 一 刑名 何罪ニ依リ何禁錮何箇月
- 一 右 及御届候也

明治何年何月何日

何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
戸主(家事擔當者) 氏名
横須賀鎮守府兵事官御中
注意 應召地ノ郡市町村長經由ヲ要ス

外國在留應召届

- 一 在留應召地 北米合衆國 紐約州シヤトル市レイン街八一東北人會
- 一 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
横須賀鎮守府兵事官御中
注意 本屆ニ限リ二通ヲ要ス一通ハ舊應召地 郡市町村長經由ヲ要ス
一通ハ在留國ノ領事官貿易事務官經由ヲ要ス

船籍(運航)港應召届

- 一 乘船年月日 何年何月何日
- 一 船名 何會社
- 一 船名 何丸運轉士
- 一 航路 何間航海
- 一 右 及御届候也

明治何年何月何日

本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
何年編入豫(後)備役 官職氏名
住所何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
召集通報人 氏名

注意 召集通報人ハ船籍(運航)港ノ陸上ニアル船舶所有者若クハ代理人ヲ定ムルヲ要ス 若シ船籍地ノ郡市町村長經由ヲ要ス

- 一 死亡(失踪、所在不明)届 官 職 氏 名 何年編入(後)備役 何年何月何日
一 死亡(失踪、所在不明)者分月別 官 職 氏 名 何年編入(後)備役 何年何月何日
右及御届候也

明治何年何月何日 本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地 戸主(家事擔當者) 氏 名 團 横須賀鎮守府兵事官御中 注意 應召地ノ郡市町村長經由ヲ要ス

明治何年何月何日 本籍何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地 戸主(家事擔當者) 氏 名 團 横須賀鎮守府兵事官御中 注意 應召地ノ郡市町村長經由ヲ要ス

明治何年何月何日 應召地何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地 何年編入(後)備役 官 職 氏 名 團 横須賀鎮守府兵事官御中 注意 應召地ノ郡市町村長經由ヲ要ス

第六條 東京鐵道院ニ入退ノ爲乗車ノ廢兵(第二條ニ該當スルモノヲ除ク)及其附添人ニ對シテハ東京鐵道院長又ハ市町村長發行ノ證明書引換ニ五割引ノ片道乗車券ヲ發賣スヘシ 但シ證明書ニハ廢兵ノ兵籍ニアリシトキノ官職並東京鐵道院ニ收容セラル、モノ又ハ同院ヲ退院シテ歸郷スルモノナル旨記載アルヲ要ス又附添人アル場合ニハ其住所氏名ヲ併記セシムヘシ
第七條 前條ニ依リ引換區間ハ左ノ通りトス
イ、院線(除鹿兒島、徳島、總武、房總線)各縣及川越鐵道會社線各縣ト大塚新橋又ハ上野線トノ相互間
但シ北海道線ト發着ノモノハ青森、函館間院給便ニ依ル場合ニ限ル
ロ、總武、房總各縣ト兩國橋驛トノ相互間
第八條 廢兵ノ乗車等級ハ兵籍ニアリシトキノ官職ニ依リ本年五月達第四二三號第七條ヲ準用ス
但シ規定ノ等級ヨリ優等級ヲ線上クルコトヲ許サス附添人ノ乗車等級ハ必ス其廢兵ト同一ナルヲ要ス
第九條 廢兵及其附添人ハ急行列車券ヲ要スル急行列車ニ乗車スルコトヲ得ス
第十條 廢兵及其附添人ニ對シテハ優等車ニ乗換テ許サス
第十一條 廢兵ハ無賃乗車證ヲ以テ乗車ノ場合ト雖規定ノ下車驛以外ノ驛ニ下車スルコトヲ得ス
第十二條 本手續ニヨリ乗車スルモノノ方向ヲ變更シタルトキハ無賃ト引引トニ拘ラス其變更驛ヨリ前途ヲ無効トス

●病況書書式

明治三十六年六月九日 訓示第十二號 郡役所、市役所、町村役場 陸軍服役條例ニ依リ願届書ニ添附スル地方醫師ニ病況書ハ左ノ書式ニ依ラシムヘシ但シ明治三十四年二月本縣訓示第三號ハ之ヲ廢止ス

●廢兵及附添人乘車手續

明治四十二年九月十五日 內務部長通達青學收第三千六百八十四號 郡 市長

廢兵及其附添人ニシテ鐵道院所有或中國鐵道株式會社ノ鐵道ニ乗車スル場合ノ取扱別紙之通り定メタル趣ニ候條貴管内ノ通達方可然御取計相成度候

- 第一條 廢兵ニ對シテハ無賃又ハ通常乗車貨金五割ヲ低減シ附添人ハ廢兵ト同行スル場合ニハ同五割ヲ低減乗車セシム
但附添人ノ引換ハ廢兵一人ニ付一人ニ限ル
第二條 職間及戰時平時ニ拘ラス公務ノ爲メ兩眼ヲ盲シ若シクハ兩肢ヲ亡シ又ハ之レニ準スヘキ傷損ヲ受ケ若シクハ疾病ニ罹リタル廢兵乗車ノ場合ニハ附添人アルモノニ限リ片道無賃乗車證ヲ交付ス
第三條 前條ニヨリ無賃乗車證ノ交付ヲ申出タルトキハ驛長ハ本人ヨリ左記書類ヲ檢シ運輸事務所長、出張所長又ハ管理局長ヲ經由シ之ヲ官房文書課長ニ提出スヘシ
一 軍人恩給法第九條第一號又ハ第二號ニ該當セル旨並兵籍ニアリシトキノ官職ヲ記載シタル市町村長(市町村長ニ準スヘキ者以下同シ)又ハ東京鐵道院長發行ノ證明書
二 無賃乗車證下附願書
乘車區間等級及規定下車驛以外ノ途中驛ニ下車シ又ハ往復旅行ノ場合ニ於テ一時ニ乗車證ノ下附ヲ請求スルトキハ其旨記載セシムルヲ要ス
第四條 官房文書課長ハ前條ニ依ル書類ノ送附ヲ受ケタルトキ之ニ對シテ通乘車證ヲ發行シ其ノ副本ト共ニ之ヲ發給課長ニ送附スヘシ
但無賃乗車證ノ通用期限ハ當該課長ヲシテ記入セシム
第五條 驛長ハ前條ニヨリ無賃乗車證(副本共)ヲ受領シタルトキハ本人及附添人ノ出頭ヲ待チ附添人ニ對スル五割引ノ片道乗車券ヲ發賣シタル上該割引乗車券ノ通用期限ト同一期限ヲ無賃乗車證ニ記載シテ之レヲ本人ニ交付スヘシ
無賃乗車證ノ副本ハ乗客賃日報ニ添附スヘシ

●病況書

縣郡(市)町(村)大字何番番戸 某 役、官、等級 何 某 病 原 因 現 症 療 法 右之 通 明治 年 月 日 醫師 氏 名 印

●大港要塞地帶

明治三十五年八月二十九日 告示第二百四十四號 改正 三九號第一九號

明治三十三年十一月海軍省告示第二十五號大港要塞地帶ニ關シ同三十二年七月法律第五號要塞地帶法並同三十三年六月陸軍省令第十四號要塞地帶法施行規則ニ依リ願書ハ横須賀鎮守府司令長官ニ宛テ大港要塞地帶司令官ニ差出スヘシ

●大湊要塞地帶告示ニ關スル件

明治三十五年八月二十九日 告示第二百四十四號

明治三十三年十一月海軍省告示第二十五號大港要塞地帶ニ關シ同三十二年七月法律第五號要塞地帶法並同三十三年六月陸軍省令第十五號要塞地帶法施行規則ニ依リ行動又ハ施設ニ關シテハ本縣告示第二百四十四號ニ準シ取計フヘシ

舊式兵器拂下手續

明治四十二年十月二十三日
内務部長通牒普學收第三千四百十八號
郡市市長

舊式兵器拂下手續ニ關スル件通牒
豫而通牒ノ次第モ有之候得共未タ其ノ出願手續ニ合セサルモノ多數有之候處理上差支候趣ニ付左記注意事項無洩徹底候様御取計有之度候
追而爲御参考別紙拂下價格表相添候
左記

舊式兵器拂下ニ關スル注意事項

- 一 學校用ハ長官若ハ知事ヨリ陸軍大臣ヘ何出ツルコト
- 一 但小學校ニ在リテハ公私立共一切拂下不相成コト
- 一 在郷軍人其ノ他ノ者拂下出願ノ場合ハ別紙第二號書式ノ願書ニ明治三十二年八月内務省令第四三號銃砲火藥類取締法施行細則ニ依リ讓受許可證ヲ添附ノ上直接陸軍大臣ヘ願出スルコト
- 一 讓受許可證ハ左ノ區分ニ依リ添附スルコト
 - 小銃ハ乙號實包空包千發以上ハ甲號千發以下ハ丙號様式ニ適合スルモノ(各様式ハ前項取締法施行細則ニ在リ)
 - 在郷軍人ト共ノ他ノ者ヲ區分スル爲メ在郷軍人ハ願書ニ其ノ役種階級ヲ明記スルコト
- 一 實包空包ノミ拂下出願ノ場合ニハ前ニ拂下ヲ受ケタル銃品彈藥ノ種類數量並許可ノ年月日等ヲ詳記スルコト

舊式兵器拂下願

何何 何何 何何 何何

右(射撃練習用又ハ紀念保存等)トシテ拂下相受度候間御許可被成下度別紙讓受許可證相添此段奉願候也
原籍地
現住所
(在郷軍人ハ役種階級) 氏 名

陸軍大臣

備考

- 一 連署出願ノ場合ハ出願者各自ノ分内認捐記ヲ要ス
- 一 總代ヲ立テ出願ノ場合ハ總代ノ願書ヘ各出願者連署ノ内譯書ヲ附スルヲ要ス

舊式銃器彈藥拂下價格表

品目	數量	學校及在郷軍人	學校及在郷軍人以外
村田步兵銃	一挺	二、〇〇〇	四、〇〇〇
同 實包	一〇〇發	〇、五〇〇	一、〇〇〇
村田騎銃	一挺	一、五〇〇	二、〇〇〇
同 實包	一〇〇發	〇、五〇〇	一、〇〇〇
村田連發銃	一挺	二、三〇〇	六、〇〇〇
同 實包	一〇〇發	〇、五〇〇	一、〇〇〇
同 空包	一〇〇發	〇、五〇〇	一、〇〇〇
村田連發騎銃	一挺	一、八〇〇	四、〇〇〇
同 實包	一〇〇發	〇、五〇〇	一、〇〇〇
擬製彈	一〇〇發	〇、五〇〇	一、〇〇〇

備考

- 一 本表價格ニハ荷造運搬費ヲ含マス
- 二 本表中實包、空包及擬製彈ノ價格ハ銃ト共ニ拂下クル場合ニ於ケル價格ヲ示ス
- 三 實包及空包ハ一回ノ拂下數ヲ一銃ニ付二百發以内トシ擬製彈ハ一銃ニ付三十發以内トス但シ學校ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 實包空包及擬製彈ノミハ拂下ス

- 但シ以前拂下タル銃ニ對シテハ第三項ニ準シテ拂下ヲナス此ノ場合ニ於テ學校及在郷軍人ニ對スル價格ハ種類ノ何タルチ間ハス總テ百發ニ付金八十錢トス
 - 五 村田連發銃及村田步兵銃ニハ一挺ニ付銃劍帶革、劍差負革、彈藥盒各一、各種騎銃ニハ一挺ニ付負革、彈藥盒、各一ヲ附ス
但シ在庫品不足ヲ生シタルトキハ右屬品ノ一部若ハ全部ヲ缺クコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ銃劍ヲ缺キタルトキハ本表價格ヨリ一挺ニ付金十錢ヲ減ス
 - 六 本表價格ハ明治四十二年八月一日以降陸軍省受領ノ分ヨリ實施ス
- 銃器彈藥拂下ニ關スル注意事項
- 一 警察官署ノ發シタル讓受許可證中往往銃砲火藥類取締法施行細則第四條ノ様式ニ適合セザルモノアリ
 - 一 實包千發以上出願ノ場合ニ於テ廳、府、縣ノ許可證ヲ添附セザルモノアリ
 - 一 在郷軍人ハ願書ニ其ノ役種階級等ヲ明記スルコト
 - 一 願書ト許可證トニ記載セル種類、數量、及姓名等符合セザルモノアリ
 - 一 實包ノミ拂下出願ノ場合ニハ前ニ拂下ヲ受ケタル銃器彈藥ノ種類數量並許可ノ年月日等ヲ詳記スルコト
 - 一 願書ハ本人ヨリ直接陸軍大臣ニ差出スコト

兵員報告方

明治四十二年十月二十六日
訓令乙第二百三十七號
郡役所、市役所

毎年其ノ管内ニ在籍シ兵役ニ在ル者ノ員數ヲ調査シ翌年一月三十一日迄ニ別紙様式ニ依リ報告スヘシ
何郡(市) 明治何年十二月三十一日現在

町區分	陸軍		海軍		合計
	現役	豫備後備補充兵	現役	豫備後備補充兵	
在籍未入隊者					
在籍未入隊者					
合計					

第二章 社 寺

第一款 祭神本尊儀式

指定神社ニ對スル神饌幣料ノ供進及參向員

明治四十年二月十三日
訓令甲第三號
郡役所、市役所、町村役場

明治三十九年四月勅令第九十六號ニ依リ指定セラレタル神社ヘノ神饌幣料ハ例祭ニ限リ供進スヘク其ノ之ヲ供進スルトキハ郷社ヘハ郡官吏、又ハ市吏員村社ヘハ市町村吏員參向スヘシ
但郡所在ノ郷社ヘハ町村吏員ヲシテ參向セシムルコトヲ得

祭禮開扉等届出方

明治十四年三月五日
布達甲第五十二號
衆人ノ雜踏スル祭禮神輿ノ巡行佛刹開扉等ハ從來所轄警察署へ出願致來
候處自今警察本署或ハ警察署又ハ分署へ可届出尤建物等共有ノ故ナリ以衆
庶參拜許可アル分ノ外私有ノ神體佛像ハ開扉ト稱シ衆庶參拜爲致候儀不
相成候此旨布達候事

●佛像他管へ持出開帳手續

明治十七年三月二十九日
布達乙第百〇一號

明治九年教部省第四號布達被廢止候ニ付テハ自今寺院佛像他管持出開帳
之儀ハ該寺住職檀家惣代ハ信徳總代及本寺法類連署之上本山之添書ヲ
以テ甲乙兩管總へ出願候様各寺院へ可相達此旨相達候事
但實地持出ハ不相成候ト心得ヘシ

第二款 神職僧侶教師氏子檀家及信徒

●社司社掌試驗細則

明治四十一年四月十四日
縣令第二十九號
明治二十八年青森縣令第三十一號社司社掌試驗細則左ノ通改正ス

第一條 社司社掌ノ試驗ハ明治三十五年二月内務省令第四號府社縣社以下
神社神職任用規則ニ依ルノ外猶ホ本細則ニ依ルモノトス
第二條 試驗ハ毎年十月縣廳所在地ニ於テ之ヲ行フ但共ノ年ノ狀況ニ依
リ施行セサルコトアルヘシ
第三條 試驗期日及其ノ場所等ハ縣内發行ノ一種若ハ數種ノ新聞紙
ニ公告ス
第四條 試驗ヲ受ケントスル者ハ第一書式ノ願書ニ第二書式ノ履歷書及
住所地市町村長ノ作成シタル府社縣社以下神社神職任用規則第二條ニ
概稱セサル證明書ヲ添附シ九月二十日迄ニ縣廳へ差出スヘシ

第五條 試驗ハ筆記及口述トシ筆記試驗ニ合格シタル者ニアラザレハ口
述試驗ヲ受ケルコトヲ得ス
第六條 受験者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ期ノ試驗ヲ受
ケルコトヲ得ス
一 不正ノ方法手段ニ依リ試驗ヲ受ケント企テタル者
二 試驗開始ノ時刻ニ出頭セズ若ハ試驗中途ニシテ退場シタル者
三 社司社掌試驗委員長ノ所定事項又ハ試驗委員ノ指示ニ從ハサル者
第七條 試驗ニ合格シタル者ニハ試驗終了ノ日ヨリ三十日以内ニ第三書
式ノ合格證書ヲ付與ス
第八條 合格證書ヲ受ケタル者府社縣社以下神社神職任用規則第二條各
號ノ一ニ概稱スルカ若ハ本細則第六條第一號ニ該當ノ事實發覺シタル
トキハ其ノ合格證書ハ無効トス
第九條 本細則施行ニ必要ナル規定ハ社司社掌試驗委員長ノ定ムル所ニ
依ル

第一書式(用紙半紙)

社司社掌試驗願

社司社掌志願ニ付試驗相成度履歷書及證明書相添此段願上候也

年 月 日
本籍地 何縣何郡(市)何町(村)大字何何番地族職
寄留地 何縣何郡(市)何町(村)大字何何番地何某方
戶主(非戶主ナルトキハ)職業
戶主トノ親柄 何
名 殿
青森縣知事 氏 名 殿
本籍地 (第一書式ニ同シ)
寄留地
戶主又ハ離長、二男、兄弟等 何
生年月日 某

學 業

何年何月ヨリ何年何月迄何業ヲ從事
何年何月何學校卒業
何年何月何職
職 業
何年何月ヨリ何年何月迄何業務ニ從事
何年何月ヨリ何年何月迄何官職
何 何
賞 賜
何年何月何學校第何學年修業ノ際學術優等若ハ品行方正ニ依リ何
等賞授與セラル
何年何月何ニ依リ何計ヲ受ケ
一 何 何
右之通相違無之候也
年 月 日
右 何 某◎

第三書式(用紙島子) 合格證書

族籍 何 某
生年月日 某
右社司社掌試驗ニ合格シタルヲ以テ茲ニ之ヲ證明ス

●官國幣社神職尋常試驗細則

明治三十四年二月五日
告示第二十六號
本縣官國幣社神職尋常試驗施行ニ關スル細則試驗委員ニ於テ左ノ通定メ
タリ
第一條 試驗ハ必要ニ應ジ臨時之ヲ行フ

第二條 試驗ノ期日及ヒ場所ハ試驗委員ニ於テ豫メ地方新聞ヲ以テ公告
ス
第三條 試驗委員ハ受験人ノ番號及ヒ試驗科目ノ日割出頭時刻ヲ定メ履
メ之ヲ受験人ニ通知ス
第四條 試驗室ハ定刻十分前ニ入口ヲ閉キテ受験人ヲ入ラシメ定刻ニ至
リテ之ヲ閉ク試驗中ハ切リニ受験人ノ出入ヲ許サス
第五條 受験人ハ參考書類及ヒ料紙ヲ試驗室内ニ携帯スルヲ許サス
第六條 試驗答狀ニハ筆ヲ自己ノ氏名ヲ書セス其番號ヲ記スルヲ要ス
第七條 試驗中ハ受験人ニ於テ靜肅ヲ旨トスヘシ
第八條 試驗中ハ試驗委員二名以上ニ立會フモノトス
第九條 試驗ノ評點ハ一科日一百ヲ以テ全點トス
第十條 總評點全五分ノ三以上ヲ合格トシ其未滿ヲ落第トス
但一科日全點十分ノ三(三十點)ニ滿タサルモノアルトキハ落第トス
第十一條 試驗終了タルトキハ試驗委員ハ合格者ノ氏名ヲ知事ニ具申ス
ルモノトス

●社司社掌推薦方

明治四十三年四月二十二日
告示第百八十四號

明治三十七年勅令第二二號第六條ニ依リ社司社掌ノ候補者ヲ推薦スルニ
ハ該推薦書ノ外左ノ書面ヲ具備セシムヘシ
但四項及五項ノ證明書ハ明治三十五年二月内務省令第四號府社縣社以下神
社神職任用規則第十一條ニ依リ其ノ候補者カ社司社掌試驗委員ノ詮衡
ヲ經ヘキ場合ニ限ル
一 候補者カ社司社掌ニ補セラレタル後給與スヘキ報酬ノ年額若ハ月
額ヲ明記シタル氏子又ハ崇敬者總代人ノ申立書
二 當該神社ノ社司社掌タルヘキ候補者ノ承諾書及其ノ履歷書
三 候補者ノ居住地ヨリ當該神社迄ニ至ル市町村長ノ里程證明書
四 明治三十五年二月内務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則第
二條ノ各號ニ該當セサル市町村長ノ證明書
五 祝詞作文祭式ヲ修メタル真典講究所同分所若ハ青森縣神職取締所

同支所ノ證明書

但儀式ニ在リテハ皇典講究所ヨリ授與セラレタル祭式證明書... 習會修了者ノ證明書ヲ以テスルコトナリ得

●社司社掌辭職願ニ氏子總代連署ノ件

明治三十三年十二月四日 達 第七十二號

縣社以下社司社掌辭職願出ノ節ハ該社氏子總代人三名以上ニ連署セシム

●社司社掌兼務制限等ノ件

明治四十三年六月二十七日 內務部長通牒青兵發第四十二號

郡市長本年四月二十二日日本縣告示第一八四號ノ次第有之候處現在ノ神職百五十五名中社以上ヲ兼務スルハ二十三名ノ多數ニシテ甚シキハ二十

- 一 現ニ五社以上兼務スル神職ハ更ニ其ノ他ノ神社神職ヲ兼務セシメサルコト
二 神社ヨリ三里以内ノ地ニ居住スル者ニアラサレハ其ノ神社ノ神職候補者トシテ推薦セシメサルコト
三 前二項ノ制限ニ據リ難キモノハ其ノ事由ヲ調査シ推薦書送達ノ際詳細申セラルコト
四 現在ノ神職ニシテ一項若ハ二項ニ抵觸スル者ハ可成其ノ制限ニ據ラシメ就中十社以上ヲ兼務スルカ一日以内ニ往復シ難キ地ノ神社ニ奉仕スル者ニ在リテハ此際縮少セシメ若クハ之ヲ解任スルコト以上

●府縣鄉村社神官奉務規則

明治二十四年十二月五日 訓示 第四八號

府縣鄉村社神官奉務規則左ノ通相定ム

- 第一條 神官ハ神明ニ對シテ尊崇誠實ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其ノ本務ヲ盡スヘシ
第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決シテ粉亂スヘカラス其ノ社ノ例祭民俗因襲ノ神職等ハ適宜行フコトナリ得
第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應ジ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ苟モ食汚ノ所爲アルヘカラス
第四條 神官ハ社殿及其ノ境内ヲ清潔ニシ修造取繕等常ニ意ヲ注キ汚穢ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス
第五條 神官ハ神社所屬ノ寶物什器及古文書類ヲ保護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖モ賣却讓與又ハ質入借入スヘカラス
第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ
第七條 神官ハ其ノ管理ニ係ル不動產積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入借入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經テ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ
第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其ノ栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカキコトナカラシムルヲ要ス

●神官神道教師ノ犯罪者届出方

明治十五年十二月十二日 達 乙第二九十八號

神官神道各宗教奉職犯罪受刑ノ者有之節ハ宜普書寫相添送ニ可届出此旨相達候事

●臺灣ニ往復スル布教者等ノ汽船割引

明治三十六年六月十六日 內務部長通牒內一發第千四百十五號

臺灣ニ渡航シ現ニ布教ニ從事シ又將來布教ノ目的ヲ以テ渡臺又ハ歸還スル宗教家(日本人タルト外國人タルト問ハス)ニハ日本郵船及大阪商船兩株式會社合航路ノ汽船ニ無賃又ハ割引ヲ以テ便乘セシメ帝國議會議員又ハ商會會議所總代ニシテ視察ノ爲メ渡臺セントスル者ニ對シ一航海三人以内ノ同汽船ニ無賃便乘セシムルコトニ取計候趣令般臺灣總督府民政長官ヨリ通知有之望ノ向ヘハ便乘券交付可致候條右申出ノ者有之候ハ左記各項ニ依リ特査ノ上御申越相成度此段及通牒候也

- 一 宗教ハ神道佛道耶教タルトナ問ハス總テ內務省ニ於テ宗教團體ト認メタルモノ及神宮奉齋會
二 便乘券ハ臺灣總督府ニ於テ調製シ各官廳ヘ交付ス
三 臺灣島沿岸船ニ依ル者ハ臺灣ニ於ケル各地方廳ニ於テ便乘券ヲ交付ス
四 便乘券ハ往復各一枚ヲ用フ
五 便乘券ハ乘船ノ際會社係員ニ渡シ乘船切符ト引換テ爲スモノトス
六 各宗派管長ハ一等船客ノ待遇ヲ受ケ無賃トス
七 管長以外ノ布教者並耶教布教者ハ定額運賃二割引トス
八 便乘券ヲ使用スルハ布教ノ爲メ旅行ストキニ限ル
九 普通船客ニ差支アル場合ハ無賃便乘者ニ限リ一名以外ハ乘船ヲ斷絶セラルコトナリ

宗教家ニ關スル事項

- 一 航路區域ハ內地臺灣間、臺灣沿岸各港間、臺灣南滿間及南滿各港間ノ臺灣總督府命令航路ニ限ル
二 便乘券下付申出者ノ旅行目的地、宗教名、職名並住所氏名ハ勿論便乘券ノ船内等級及往復若クハ片路等ノ種類明瞭ナルヲ要ス
三 帝國議會議員及商會會議所總代ニ關スル事項
一 便乘券ハ往復各一枚ヲ用フ
二 便乘券ハ乘船ノ際會社係員ニ渡シ乘船切符ヲ請求スルモノトス
三 無賃便乘一等船客ノ待遇ヲ受ク但シ一航海三人以内ト限レルヲ以テ申込ノ順序ニ依リ定員ニ滿ルトキハ次回給便送便乘券ヲ斷絶セラル

第七條 市長町村長前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ揭示スヘシ

第八條 總代人選舉ノ方法ハ神職住職ノ定ムル所ニ依ル

第九條 市長町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代人ノ選舉ニ臨監スルコトヲ得

第十條 總代人ノ選舉ヲ終リタルトキハ神職住職ハ新舊總代人ノ連署ヲ以テ三日以内ニ當選者ノ住所、族稱、氏名、生年月日ヲ市長町村長ニ届出ツヘシ

第十一條 總代人ノ任期ハ滿三箇年トス再選スルヲ妨ケス

第十二條 總代人ノ任期滿了シ又ハ缺員ヲ生シタルトキハ三十日以内ニ選舉ヲ施行スヘシ

第十三條 總代人ニシテ第四條各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第十四條 神職住職第十二條ノ選舉ヲ行フコトヲ怠ルトキハ郡市長ハ期日ヲ定メ其ノ施行ヲ命スヘシ

第十五條 補缺選舉ニ當選シタル總代人ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十六條 總代人任期滿了ニ至ルモ後任者ノ届出ヲ了スル迄在任スルモノトス

第十七條 市長町村長及神職住職ハ總代人名簿ヲ備ヘ置キ第十條ノ届出事項ヲ登記シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

第十八條 總代人ハ神社寺院ノ維持經營ニ關スル諸般ノ事件ニ參與シ神職住職ヲ補佐シ古文書、什器、寶物、財産等ノ管理ニ關シ意見ヲ述ヘ又ハ會計其ノ他ノ書類帳簿ヲ檢閲スルコトヲ得

第十九條 總代人ハ總テ神社寺院ノ願願ヲ連署スヘシ

第二十條 神職住職ニ於テ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ總代人ハ之ヲ監督官廳ニ申告スルコトヲ得

第二十一條 神職住職缺員ノトキ若ハ旅行不在ノ爲メ其ノ依託ヲ受ケタルトキハ總代人ハ神社寺院ニ關スル諸般ノ取締ヲ爲スモノトス

第二十二條 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二十三條 本規程ハ庵室及獨立ノ佛堂ニ之ヲ適用ス

第二十四條 第二條ノ總代人口數ハ本規程施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十五條 本規程施行以前ヨリ在職セル總代人ハ明治四十二年十二月三十一日迄ニ全部改選スヘシ

第二十六條 本規程施行ノ日ニ於テ現ニ六名以上ノ總代人アル神社寺院ハ改選ヲ行フ迄從來ノ儘存置スルコトヲ得

第二十七條 特別ノ事情アル神社寺院ニ在リテハ知事ノ認可ヲ得テ本規程ニ依ラサルコトヲ得

第二十八條 總代人ニ關スル從前ノ例規ハ本規程施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

●復社ニ依ル氏子分離方
明治十四年十一月三十日
連乙第二百八十八號
郡役所(戶長役場)

復社ノ上氏子分離スル願何ハ總テ最初合祭シタル神社關係人ノ承諾書ヲ添ヘ可爲差出此旨相違候事

●神佛以外宗教信徒數届出方
明治三十九年一月二十八日
縣令 第五號

明治三十八年十二月二十九日內務省令第二十三號ニ依ル信徒數ノ届書ハ所轄郡市役所ヲ經由スヘク郡市役所ニ於テハ該届書ニ就キ其當字會堂設歎所又ハ講讀所ノ所在地並ニ其名稱等ヲ調査シ之ヲ一括シテ毎年一月二十日迄ニ縣廳ニ差出スヘシ

●社寺佛堂火災取締方
明治三十一年六月二十一日
訓示 內第七號
郡市 長

近來神社寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタルモノ多シ是レハ一管理不行届ノ致ス所ニシテ不都合ヲ免レサル儀ニ有之就テハ平素特ニ注意警戒ヲ加ヘ候様一般神社寺院佛堂ヘ示達セラルヘシ

神社寺院佛堂ヨリ出火シタル場合ニ於テ法律上處分セラルモノアルト否トニ拘ハス其神社寺院佛堂ノ管理者ハ各其ノ管理上ノ責任スヘキモノナルニ依リ如此事實生スルニ際シテハ其願末十分審査シテ詳細具申

●寺院火災豫防取締ニ關スル件

明治四十二年五月二十六日
內務部長通牒書收第二千二百二號ノ一
郡市 長

別紙ノ通り內務省宗教局長ヨリ佛道各派管長ヘ申進置タル旨通牒有之候條御心得置相成度候

(別紙)

近時名藍巨刺ノ火災ニ罹ルモノ往往有之帝ニ殿堂ノ壯麗ヲ殘フノミナラス所藏ノ寶物什器等ヲモ毀損滅失シ爲ニ倍仰ノ丰標及史實ノ資料美術ノ型範ヲ失ヒ誠ニ遺憾ノ至リニ存候寺院ノ災害豫防方ニ付テハ從來其ノ監督手續等ヲ定メ夫夫訓達相成候事ト被存候モ此際尙ホ左記事項ヲ參酌シ貴宗派内一般寺院ニ對シ災害豫防ノ取締方一層行候様御戒諭相成度依命此段申進候也

一 内外ノ巡警ヲ怠ラサル事

一 建物及之ニ接近シタル場所ニ於テ浸ニ喫煙焚火等爲サ、ルハ勿論燈明等ハ出來得ル丈ケ危險防止ニ注意スル事

一 床下格下ヲ清掃ニシ浸ニ出入シ得サル等適當ノ設備ヲ爲ス事

一 藁、古木等燃質物ハ適當ノ設備アル場所ニ藏メ決シテ床下格下等ニ藏置セサル事

一 什貨物ハ可成不燃質物ヲ以テ繕造セル容器又ハ建物ニ藏置スル事

一 消火栓、消火器、朝筒ヲ備フル等適當ノ設備ヲ爲ス事

一 再建、増築、修繕ノ場合ニ於テハ其ノ設計ハ可成火災豫防ノ點ニ注意シ平素火器ヲ要スル場所ハ特ニ嚴重ナル設備ヲ爲シ又ハ建物ノ周圍ニ適當ノ空地ヲ存スル等注意スヘキ事

一 豫メ防火ノ爲メ樹木ヲ植栽シ若ハ牆壁ヲ設ケル事

一 隣附人夫ヲ設ケ置ク事

一 火災保險ニ加入シ置ク等豫メ救済ノ方法ヲ講スル事

第三款 境内樹木建物與廢移轉

國幣社營繕ニ關スル規程左ノ通相定ム

第一條 建設物ノ新築又ハ増築ハ維持ノ目途確立シ風致ヲ害セサルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

第二條 明治十年四月內務省第四十七號連ニ依ル官營建物ノ再築、改築増築ハ官國幣社建物制限圖(明治二十二年九月內務省訓第六四二號)ノ坪數ニ超過スルコトヲ得サルモノトス但特別ノ事情アル場合ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第三條 特別ノ事由アルモノニアラサレハ下付ノ保存金及保存金ノ殘餘ヲ以テ建設物ノ新築、増築及神苑水道等新設増築ノ費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 左記ノ場合ノ一ニ該當スルトキハ內務大臣ニ稟請セシムヘシ

一 建設物ヲ新築又ハ増築シ及神苑、水道等ヲ新設又ハ増設セントスルトキ

二 本殿、四百年以上前ノ建物、特別山緒アル建物又ハ建築優秀ナル建物ノ再築、改築及模様替ヲ爲サントスルトキ

第五條 前條第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外建設物又ハ神苑、水道等ノ再築、改築、模様替ヲ爲サントスルトキ及工費一廉三十圓以上ノ修繕ヲ爲サントスルトキハ知事ニ稟請セシムヘシ

第六條 臨時營繕ノ爲メ各社共通金ノ支出ヲ要スルトキハ內務大臣ニ稟請セシムヘシ此場合ニ於テ不用ノ材ノ賣却代金ハ改工費ニ加フヘキモノトス

第七條 第四條第二號ノ建設物ヲ廢棄セントスルトキハ內務大臣ニ稟請セシム其他ノ建設物ヲ廢棄シ又ハ神苑水道等ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ニ稟請スヘシ

第八條 營繕工事一廉三百圓以上ナルトキハ其執行方法ハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ

- 一、名稱所在地及其距離
- 一、本會堂敷地ノ所有者名及其ノ所有者名 諸ノ有無
- 一、本會堂建設費ノ總額及其ノ費用ノ出處 並各自負擔ノ金額
- 一、管理者ヲ設クルモノハ其ノ資格及選任ノ方法並其ノ權限
- 一、管理者タル者ノ職任アラハ其ノ人等ノ履歷
- 一、維持費ノ豫算及支辨ノ方法及永代費 其アラハ其額
- 一、擔當布教者タルヘキ者ノ豫算アラハ 其人及履歷

●社寺境内陸地測量 諸標ニ關スル件

明治二十五年五月十九日 告示 第四十號

陸軍省ニ於テ陸地測量ノ爲メ神社及ヒ寺地 地ノ測量諸標設置方出取官ヨリ管理者ニ神地地ニ在リテハ神官、寺院地ニ在リテハ住職(ハ協議アリタリ場合保存及風致上ニ支障ナキ限リハ其需ニ應スヘシ)

●社寺合併獎勵

明治三十九年九月十八日 內務部長依命通牒 一發第二千六百五十二號

本年八月九日勅令第二百二十號ヲ以テ神社等 院佛堂合併跡地無代ト什ノ件發布相成候處府縣社以下神社ノ内ニハ神社ノ體裁備ハラス神職ノ常置ナク祭祀行ハラス崇敬ノ實感ヲササハルモノカ、ス寺院佛堂ニ於テモ亦堂宇毀破シ境内荒廢シ注用行ハラス其名アリテハ、ト實ナキモノ鮮シトモ是等ノ神社寺院佛堂ハ成ルヘク合併セシメ體裁ヲ完全ナラシムルト同時ニ神社寺院等ノ資産ヲ增加シ維持ニ困難ナカク、シテ其ノ院殿ヲ計ラムトスルノ旨趣ヨリ右勅令ヲ發布セラレタル儀ニ候、右等神社寺院佛堂ハ成ルヘク合併ナ行ハシメ殊ニ佛堂ニ在リテハ其管理、寺院若クハ最寄寺院ヘ合併セシムルカ又ハ寺院境内ニ移シ境内佛堂ト爲サシムルノ方法ヲ講セラレ度而シテ合併跡地ノ下付ヲ受ケタルトキハ、旨趣ニ依リ管理セシメラレ度候依命此段及通牒候也

●社寺明細帳照帳

明治四十三年三月三日 內務部長通牒海兵衛 一八號

神社社寺佛堂等ノ諸願屆書ニシテ明細帳ト符合セラルベシ往復ナ重ナルモノ頗有之共シク事務ノ進捗ヲ妨ケラレ候條左ノ件御實行相成度知事ノ命ニ依リ申進候

- 一、此ノ際可成係員ヲ委嘱セシメ郡市役所備置ノ明細帳ヲ本廳ノ明細帳ニ照合シ附後確實ニ異動訂正ノ上係員委嘱等ノ機ヲ利用シ少クトモ毎年一回之ヲ照合スルコト
- 二、神社社寺佛堂等ノ諸願屆書ヲ受理シタルトキハ必ス之ヲ明細帳ニ登錄ノ事項ニ對照シ誤謬ヲ訂正セシメ事實明細帳ト相違シアルモノハ其ノ事由ヲ詳具シタル明細帳更正願ヲ別ニ提出サシメ(證據書類アルモノハ之ヲ添附シ)右願屆書ト同時ニ進達スルコト

●神佛以外ノ宗教ニ關スル願屆書式

明治三十二年八月十七日 告示 第六十號

本年七月內務省令第四十一號宗教ニ關スル願屆書ハ別紙雜形ニ準據調製スルヲ要ス 但所轄郡市役所町村役場ヲ經由スヘシ (別紙) 宣 教 届 一、私儀宗教ノ宣布ニ從事致候(從前ヨリ宗教ノ宣布ニ從事致居候間)別紙願屆書相添左記事項ヲ具シ此段御届申上候也 一、宗教ノ名稱 (宗教ノ名稱トハ例ヘハ耶穌教中ローマンカソリック、グリーキカソリック、プレスビテリアン、コングレグーション、サウザンメソヂストト云フカ如ク他ト明ニ區別シ得ラル、様詳細ニ其名稱ヲ記スヘシ) 二、布教ノ方法 (布教ノ機關トシテ會堂設教所講義所日曜學校等ヲ設クルモノニ在リテハ其會堂設教所講義所日曜學校等ノ所在地番地名ヲ記スヘシ其

他一定ノ場所ヲ定メス他人ノ家若ハ自宅ニ於テスルモノハ其趣ヲ記スヘシ

(講義設教以外ノ方法例ヘハ通信傳道其他印刷物ノ配付等ノ如キ方法ニ依リテ布教スルモノハ其方法ヲ記載スヘシ) 年 月 日 氏 名 印

(長官) (知事)宛 履 歷 書

住所(居所) 國籍 職 業 氏 名 年 齡

一、學業其他一般ノ履歷

一、賞罰 右之通無相違候也

年 月 日 氏 名 印

何何設立願

何何設立致度候間御許可被成下度左記事項ヲ具シ此段御願申上候也

一、設立ヲ要スル理由 (其地ニ信徒多數ナルコト又ハ其地ト別ノ緣故アルコト等凡テ設立ヲ要スル特種ノ事情ヲ詳記スヘシ) 二、設置ヲ終ルヘキ期限 (新ニ建物ヲ新築スルハ勿論在來ノ建物ヲ以テ之ニ充ル場合ニ於テモ凡テ堂宇會堂設教所又ハ講義所ノ類ノ設備ヲ完成スル期限ヲ豫定シテ記載スヘシ) 三、名稱(何何會堂ト稱スル類)所在地(郡市町村字番地)敷地(地種目、坪數)建物(建坪並ニ内部ノ設備) (祭壇壇場) (禮堂席等) 四、宗教ノ名稱(屆書ノ部ニ同シ) 五、管理及維持ノ方法 (管理ハ奈何ナル方法ニ依ルカ管理者ハ奈何ニシテ之ヲ定ムルヤ建設費維持費ノ財源其他維持ノ方法ニ關スル事項ヲ記スヘシ)

六、擔當布教者ノ資格及選定方法

(擔當布教者トハ其建物ニ於テ當時布教ヲ受持ツモノヲ云フ其資格トハ奈何ナル試驗ニ及第シ奈何ナル學校ヲ卒業シ若ハ奈何ナル履歷ヲ有スルヤ云ヒ資格ニ關スル定メナキモノニ於テハ其旨ヲ記載スヘシ其選定方法トハ何人カ奈何ナル方法及奈何ナル手續ニ依リ擔當布教者ヲ定ムルヤヲ記スルヲ云フ) 年 月 日 住所(居所) 國籍 氏 名 年 齡

(長官) (知事)宛

何何既設届

何何ハ明治年月日ヨリ設立致シ來リタルモノニ有之依テ左記事項御届申上候也 (以下何何設立願書ニ同シ) 年 月 日 住所(居所) 國籍 氏 名 年 齡

別紙何何管理者(擔當布教者)ノ履歷書添上申候也

住所(居所) 國籍 氏 名 年 齡

(長官) (知事)宛 履歷書式ハ前ニ出タルモノニ同シ)

宣 教 届 宣 教ニ關スル事項變更届 宣 教ニ關シ御届申上候處ノ事項中左ノ通變更致候間此段御届申上候也 一、何何 年 月 日

住所(居所) 氏名印 年 齡

(長官) (知事) 宛

備考 以上ノ願(届)書中ニ記スヘキ事項ニ付キ印刷物アルモノハ之ヲ其願(届)書ニ添附シ其事項ノ記載ニ代ニルコトヲ得但印刷物中ニ其他ノ事項ヲモ記載スルモノニ在テハ其記載ニ代ヘタル部分ニ記載ヲ附スルコトヲ要ス

第四款 會計財産

招魂社費並招魂社營繕費收支取扱手續

明治二十四年三月三十一日 達 第百八十九號

招魂社受持神官、職死人墳墓監守者

招魂社費並招魂社營繕費收支取扱手續別冊ノ通相定メ明治二十三年度分ヨリ施行ス

- 第一條 招魂社費並招魂社營繕費ハ招魂社ニ屬スル分ハ招魂社受持神官墳墓ニ屬スル分ハ墳墓監守者ニ屬スル分ニテ交付スヘキニ付各自之ヲ管理スヘシ
第二條 前條ノ定額ハ毎年度ノ初月十日迄ニ第一號書式ニ依リ縣廳ヘ請求スヘシ
第三條 招魂社並墳墓ニ寄附金アルトキハ交付金ニ編入整理スヘシ
第四條 招魂社營繕費中招魂社並墳墓小修繕及掃除費ハ毎年度左ニ掲クル金額ヲ定限トシ其他ハ臨時修繕ノ費用ニ充ツヘシ
弘前招魂社 金十二圓
上北郡馬門墳墓 金七圓
青森柳町墳墓 金五圓

青森正覺寺墳墓 金三圓
青森常光寺墳墓 金二十五圓
右ノ外各地ノ墳墓 金二圓ツ、

- 第五條 招魂社並墳墓ノ修繕ヲ要スルトキ(寄附者指定ノ寄附金ヲ以テスルヲ除ク)ハ仕様帳ヲ添附シ申出許可ヲ受クヘシ
第六條 總テ役員ノ支出ハ正當請求人ノ領收證書ヲ附シ相渡スヘシ
第七條 招魂社費並招魂社營繕費ノ殘額ハ從來不足補充ノ爲メ積立置キ大藏預金局又ハ選信省爲替貯金局ヘ預ケ入増殖ヲナスヘシ
第八條 交付金若クハ寄附金ヲ領收シ暫時ニシテ支出ヲ要スル金額ヲ除クノ外現金ノ餘額置クコトヲ得ス必ス前條ニ準シ預ケ入ヲナスヘシ
第九條 招魂社費並招魂社營繕費及寄附金ハ適宜出納簿ヲ設ケ受拂ヲ明瞭ニ記載スヘシ而シテ其出納簿ハ第六條ノ領收證書ト共ニ滿五箇年以テ上保管スヘシ
第十條 各管理者ハ前年度(前年四月ヨリ其年三月マテ)出納簿ノ結果ニ依リ毎年度第二號書式ノ受拂精算表及第三號書式ノ附屬異動表ヲ作り四月二十日迄ニ縣廳ヘ提出スヘシ
第十一條 各管理者交符ノ節ハ第七條ノ預ケ金通報及第九條ノ出納簿並領收證書其他管理上必要ノ書類ハ日録ヲ添ヘ受渡ヲナシ新舊連署縣廳ヘ届出ヘシ
第十二條 招魂社費並招魂社營繕費及寄附金等ニ關スル出納ノ事務ハ臨時吏員ヲ派出シ檢査セシムヘシ
第一號 書式
一 金 何 程
是ハ明治何年度招魂社費(官祭招魂社營繕費)(官修墳墓地費)右御渡有之度候也
明治 年 月 日
官祭招魂社神職(何處官修墳墓監守人)
住所番號(何寺院住職)
何 某 印
第二號 書式
知 事 宛
何 某 印

收支計算書

Table with columns for '受' (Received) and '高' (High) and '内' (Internal) and '際' (Side). Rows include '元', '前年度ヨリ越高', '交付金領收高', '預金利子領收高', '預金何程ニ屬スル何分利子何月ヨリ何月迄何月分', '寄附金領收高内金何所何某ヨリ何我トシテ寄附ノ分', '何所何某外何人ヨリ何費トシテ寄附ノ分', '仕 拂 高', '招魂社費', '何何祭典費ヲ列記スヘシ', '但一箇人ニ付金何程', '何何', '招魂社營繕費', '通 常 費', '但掃除人夫何人一人ニ付金何程', '臨時修繕費金', '但何月何日許可何或ハ何某寄附金ヲ以テ何何修繕ノ分', '墳墓費内金', '通 常 費', '但掃除人夫何人一人ニ付金何程', '臨時修繕費

一金

但何月何日許可何何修繕費 差引建型年度ハ越高 但預金局預(爲替貯金局預) 右明治何年度招魂社費並招魂社營繕費(墳墓費)收支計算書面之通相違無之候也 (肩書請求書同様認ムヘシ) 年 月 日 何 某 印

國幣社會計取扱手續

- 明治四十一年三月十二日 訓令乙第七十二號 國幣小社岩木山神社事務所
明治四十年四月本縣訓令乙第二七三號國幣小社岩木山神社會計取扱手續左ノ通り改正ス
國幣小社岩木山神社會計取扱手續
第一條 國幣小社岩木山神社ノ會計取扱ハ明治四十年一月内務省令第一號及同年四月同第六號ニ據ルノ外尙ホ本手續ニ依ルヘシ
第二條 支拂ニ關スル受取證書ハ豫算ノ各日毎ニ區別整理スヘシ
第三條 社入金一箇月三十圓以内ナルトキノ豫備資金積立歩合ハ其ノ百分ノ二トス但一箇月ノ社入金一圓未満ナルトキハ此ノ限ニアラス
第四條 毎月ノ社入金ヨリ營繕費及豫備資金トシテ積立ツヘキ金額ヲ控除シタル殘額ノ十分ノ三ハ神職及職員ノ手當金トス
第五條 前條ノ手當金配當ハ其ノ二分ノ一ヲ半分シ他ノ二分ノ一ヲ各自ノ俸給額ニ比例スヘシ
第六條 毎月ノ社入金ハ其ノ翌月ノ十五日迄ニ別記様式ニ依リ報告スヘシ
第七條 支出豫算ニ於テ認可ヲ受ケタルモノト雖モ一廉十四以上ノ營繕ヲ行ハントスル場合ハ設計書及繪圖面ヲ具シ更ニ認可ヲ受クヘシ
第八條 本手續ハ明治四十一年度ヨリ施行ス
明治何年何月中社入金報告書

科	目	第四項 地境收入外					計	本年 度 預 算 (本年 度 以 前 年 度 預 算)	備考
		第一目	第二目	第三目	第四目	第五目			
第六項 資金支出	第一目	基本財産							
	第二目	利息支出							
	第三目	利息支出							
	第四目	木質燃料							
	第五目	枯朽木倒死							
第五項 雜收入	第一目	預金利息							
	第二目	不用物品							
	第三目	賣物							
	第四目	家屋賃料							
	第五目	地所賃料							
第四項 地境收入	第一目	地境内地							
	第二目	地所賃料							
	第三目	家屋賃料							
	第四目	枯朽木倒死							
	第五目	木質燃料							
第三項 資金積立	第一目	基本財産							
	第二目	利息支出							
	第三目	利息支出							
	第四目	各所修繕							
	第五目	何							
第二項 修繕費	第一目	何							
	第二目	何							
	第三目	何							
	第四目	何							
	第五目	何							
第一項 社費	第一目	神饌費							
	第二目	何							
	第三目	何							
	第四目	何							
	第五目	何							

現金 何程 基本財産ニ編入
右(認可相成度候也)(及報告候也)
備考
一科目ハ其ノ時ノ状況ニ依リ増減スヘシ
一現金ヲ掲クルハ決算書ノ場合ニ限ル
一科目ニ關スル説明ハ備考ニ掲記スヘシ

區分	前年度	本年度	受			計	本年 度 預 算 (本年 度 以 前 年 度 預 算)	備考
			何	何	何			
現金	前年度	越	何	何	何			
	年度	高	何	何	何			
	積	金	何	何	何			
	當	元	何	何	何			
	金	金	何	何	何			
預金	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
何公債額面何程買入	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
何公債額面何程買入	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			

科	目	第三項 資金積立					計	本年 度 預 算 (本年 度 以 前 年 度 預 算)	備考
		第一目	第二目	第三目	第四目	第五目			
第六項 資金支出	第一目	基本財産							
	第二目	利息支出							
	第三目	利息支出							
	第四目	各所修繕							
	第五目	何							
第五項 雜收入	第一目	預金利息							
	第二目	不用物品							
	第三目	賣物							
	第四目	家屋賃料							
	第五目	地所賃料							
第四項 地境收入	第一目	地境内地							
	第二目	地所賃料							
	第三目	家屋賃料							
	第四目	枯朽木倒死							
	第五目	木質燃料							
第三項 資金積立	第一目	基本財産							
	第二目	利息支出							
	第三目	利息支出							
	第四目	各所修繕							
	第五目	何							
第二項 修繕費	第一目	何							
	第二目	何							
	第三目	何							
	第四目	何							
	第五目	何							
第一項 社費	第一目	神饌費							
	第二目	何							
	第三目	何							
	第四目	何							
	第五目	何							

區分	前年度	本年度	受			計	本年 度 預 算 (本年 度 以 前 年 度 預 算)	備考
			何	何	何			
現金	前年度	越	何	何	何			
	年度	高	何	何	何			
	積	金	何	何	何			
	當	元	何	何	何			
	金	金	何	何	何			
預金	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
何公債額面何程買入	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
何公債額面何程買入	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			
	何	何	何	何	何			

釘、繩、筵、蓆、雜巾、草履等ノ雜品ニ要スル費用及他ノ費目ニ該當セザルモノニ要スル費用ヲ計上スルコト

寺院ノ財産ニ關スル諸願ノ件

明治十七年十一月二十五日 達乙第三百七十五號 郡役所(局長役場)

(消滅) 一 祠宇或寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財産ニ關スル諸願ハ(寺院ハ本寺法類連署)管長ノ添書ヲ要スヘシ 右相違候事

國有林野法及國有土地森林原野下戻法等ニ關スル件

明治三十二年十一月八日 內務部長通牒第一發第六百八十一號 郡市長

國有林野法及國有土地森林原野下戻法ニ依リ社寺ニ於テ下戻拂下境內編入等出願ニ關シ今般別紙ノ通牒令相成候處右ニ關シテ本年四月十八日內三乙發第四四號ヲ以テ及通牒候處モ有之尙ホ不要存置下決定シタル社寺上地林ニシテ市内又ハ市ニ接近セルモノ竝ニ其他ノ上地林ト雖モ著名ナルモノ若ハ特別ノ山緒アルモノハ賣拂ノ指示前其筋ヨリ當處ニ通知有之管ニ候得共其他ニ於テモ謂レナク社寺ヨリ出願セル等ノ事實ナキニ御注意ノ上社寺ヲシテ永遠ノ利益ヲ失ハシメサル様御取計相成度依命此段申進候也 (別紙)

明治三十二年十月三十一日 內務大臣訓令 訓 第九八號

國有林野法及國有土地森林原野下戻法及之ニ附隨スル法令中社寺保護ノ精神ヲ以テ下戻拂下境內編入等ニ關シ社寺ニ特別ノ權利ヲ付與セル規程ヲシトセス然ルニ近來社寺ニ於テ往往狡猾ノ輩ノ爲メニ誤ラレ又ハ目前ノ

利益ニ走リ該各種ノ權利ヲ放棄セントスルモノアルキニ傳聞ス此ノ如キハ獨リ政府ノ趣旨ニ違フノミナラス社寺永遠ノ利益ヲ失フ義ナルヲ以テ各位能ク其點ニ留意シ社寺ヲシテ其權利ヲ充分ニ實行セシメ神職住職其他社寺關係者ニ於テ心得違ナカラシムル様取計ヲヘシ 右訓令ス

明治三十二年十月三十一日 內務省社寺局長通牒 認 甲 第三百九十六號

國有林野法及國有土地森林原野下戻法ニ依リ社寺ニ於テ下戻拂下境內編入等出願ニ關シ本日訓令第九八號ヲ以テ訓令相成候處右ニ關シテ本年四月社甲第三號ヲ以テ通牒ニ及ヒ候處モ有之尙ホ不要存置下決定シタル社寺上地林ニシテ市内又ハ市ニ接近セルモノ竝ニ其他ノ上地林ト雖モ著名ナルモノ若ハ特別ノ山緒アルモノハ賣拂ノ指示前林野整理局長ヨリ貴官ヘ照會ニ及ヒ候處林野整理局長ヨリ各支局長ニ通牒有之條貴官ニ於テ該照會ヲ受ケラレタルトキハ勿論其他ニ於テモ謂レナク社寺ヨリ出願セザル等ノ事項ナキニ御注意ノ上社寺ヲシテ永遠ノ利益ヲ失ハシメサル様御取計有之度尤林野整理ノ都合モ有之ニ付之カ爲メ林野整理ノ進行ヲ遲緩ナラシメサル様御取計御相成度依命此段及通牒候也

神社財産登錄ニ關スル件

明治四十二年三月二十五日 內務部長通牒青學發第九十六號 郡市長、岩木山神社管司

神社財産登錄ニ關スル件通牒 四十二年七月勅令第七十七號ニ依リ近近申請候處其ノ記載事項或ハ區區ニ涉ルノ恐有之殊ニ社殿及工物等ニ於テ建坪間數ノ丈量法尤モ然ルニ被存候條後別紙ニ依リ夫夫申請候條從來申請シタルモノニシテ別紙ニ概觸ノ限ハ此際至急訂正方御取計有之度候

土地之部

境内地タルト境外地タルト問ハス神社所有ノ土地ハ悉ク登記所ノ登記ヲ經タル後登記簿ノ際本添附シ登錄ヲ申請スヘキモノニシテ官有境内地ハ登錄スルモノナルヲ否ヤ往問合ノ向モアリ又現ニ登錄ヲ申請シタル向モアレトモ右ノ名稱ノ如ク官有ニシテ神社有ナラサルカ故ニ登錄セラルヘキモノニアラス且ツ民有境内地ナリトモ其ノ土地ハ個人持共有若

クハ町村有等ナレハ又同様ナリトス然ルニ同一區畫ノ境内又ハ境外地ニシテ地番ヲ異ニシ二筆以上ヨリナルモノアリ是等ハ一筆毎ニ項ヲ別ニシ登錄ヲ申請セザルヘカラサルナリ

一 所在地ノ欄ニハ其ノ土地所在ノ郡市町村大字、字番地ヲ記スルコト 二 地目ノ欄ニハ郡村宅地、市街宅地、田、畑、山林、原野雜種地、沼池等其ノ地ノ種類ヲ記スルコト 三 段別又ハ坪數ノ欄ニハ様式ノ備考ニ依リ記入シ境内外ノ區別ノ欄ニハ其ノ地ノ境内ナルヤ境外ナルヤノ區別ヲ記スルコト

社殿工物ノ部

本殿、幣殿、拜殿、假殿、神樂殿、神饌所、參籠所、社務所、中門、樓門、神庫、祭器庫、倉庫、手水舎、透塀、瑞垣、廻廊、橋梁、鳥居、燈籠、高麗犬、表柱石、住宅、納屋、厩等荷モノ工ヲ以テ製作セル神社所有一切ノ物件ヲ登錄スルモノナリ

一 種類名稱ノ欄ニハ前ニ列記シタル建物又ハ工物ノ種類名稱ヲ記スルコト 二 番號ノ欄ニハ鳥居等ノ如ク同一種類ノモノニ以上アル場合ニ於テ一ノ鳥居二ノ鳥居等ト區別スル一若ハ二ノ番號ヲ記スルコト

三 構造ノ欄ニハ社殿ニ在リテハ木造、檜材、屋根檜皮葺(柿葺、銅葺、萱葺、瓦葺)破風造(流レ破風、四ツ棟造、切破風)ニ大社造、住吉造、大鳥造、神明造、流レ造、春日造、聖武造、八幡造、日吉造、伽藍造、權現造、八棟造、朱塗、高欄附等又瑞垣、鳥居燈籠等ニ在リテハ木造(石造、金屬製)春日形(神明形)春日形(住吉形)等其ノ構造形式ヲ簡明ニ記スルコト但鳥居ノ形式ニハ又二柱、鳥木、覆頂、翼座等ノ名稱ヲ以テスルコトアリ構造形式ハ總テ其ノ向ノ者ニ就キ調査シタル後夫夫記入スルヲ要ス

四 建坪又ハ間數ノ欄ニハ社殿其ノ他ノ建物ニ在リテハ屋根ヲ受クル柱ノ地上ニ於ケル柱ノ真直ヨリ丈量シタル長サ及其高サヲ鳥居ニ在リテハ地上ニ於ケル兩足眞直ノ幅及兩足中間ノ地上ヨリ丈量ノ高サヲ燈籠高麗犬ニ在リテハ地上ヨリ頂迄ノ高サヲ夫夫記入スルコト

五 所在地目段別又ハ坪數ノ欄ニハ其ノ建物又ハ工物ノ建設セラレアル郡市町村大字番地ノ土地ノ種類及段別又ハ坪數ヲ記スルコト土地ノ部ニ於ケル各項ヲ參照スヘシ但シ二筆以上ヨリナル境内地ニ於

テ或工物カ其内ノ一筆ノ地内ニ在ルトセハ關係アル土地ノ番號段別ノミヲ記シ境内全部ヲ記スルニ及ハス

寶物之部

寶物ハ明治十二年各神社ヨリ取調差出シタルモノヲ根據トシ登錄ヲ申請スヘシト雖モ中ニハ寶物ト見做スヘカラサルモノナキヲ保セス元來寶物ト貴重品トノ區別ハ古實鑑定上特別ノ眼識ヲ有スル者ヲシテ實際其物ヲ鑑定セシムルニアラサレハ容易ニ判別スルコト能ハサルヘキモ概略神社ノ山緒並祭神ノ御事歷ニ特殊ノ關係アルモノ又ハ美術工藝上ノ參考トナルヘナキ製作優秀ナルモノ及歴史上ノ證據トナルヘキモノヲ以テ寶物トシテ申請スヘキ其他ノ貴重品トシテ神社登錄ニ記載シ保存スルヲ要ス

一 名稱ノ欄ニハ緣記書、給卷物、棟札、鏡、刀劍、甲冑等其ノ寶物ノ名稱ヲ記スルコト 二 品實形狀寸尺ノ欄ニハ畫ノ幅物ニ在リテハ紙地、絹地(彩色(畫畫)何人物(山水)何模様縹子ノ裝束象牙軸等其ノ品實形狀ヲ簡明ニ記シ猶ホ全部及畫面ノ長サト幅トヲ記スルコト

三 作者傳來ノ欄ニハ作者、筆者ノ姓名、製作ノ由來傳承並其ノ年月日寄附人名等ヲ記スルコト

寺院ノ寄附金募集願ハ管長ノ添書ヲ要スル件

明治三十三年九月四日 達 第五百十四號 郡役所、市役所、町村役場

明治十七年十一月本縣乙第三七五號ヲ以テ祠宇或寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財産ニ關スル諸願ハ本縣管長法類連署ノ添書ヲ要スヘキ旨相違候處去ル三十二年七月內務省令第六號及本年八月同省令第三十八號ニ依リ寺院或祠宇ニ於テ觀覽料徵收及寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケントスル場合モ其願書ニ所屬宗教派管長ノ添書ヲ添附セシムヘシ

●社寺佛堂等ノ寄附金募集取締方

明治三十四年八月二十二日
内務部長通牒第一發第六百九十四號

神社寺院佛堂等ノ寄附金募リニ關スル儀ニ付テハ明治三十一年七月内務省令第六號ヲ以テ規定セラレ三十三年八月同省令第三十八號ヲ以テ更ニ改定候處元來寄附金ノ募集タルヤ其ノ目的適切止ムヲ得サルニ出テ事實又能ク成功ヲ達クルモノナルニ於テハ必シモ不可ナラスト雖モ從來ノ出願者中ニハ果シテ成功シ得ヘキヤ否ヤノ疑ヲ揮マサルヘカラサルモノナキヲ保セス其ノ目的ニシテ正當ナラス又ハ中途ニ挫折スルカ如キアラハ其ノ結果濟ニ補益ナキノミナラス却テ害毒ノ害心ニ堪ヘサルモノ可有之候就テハ既ニ許可セラレタルモノニ對シテハ果シテ能ク其ノ趣旨ニ背反セシテ事案ヲ遂行スルヤ否ヤニ注意シ時宜ニ依リテハ吏員ヲ派遣シテ相當ノ監督ヲ加ヘ又新タニ願書ヲ提出スルモノニ對シテハ目的ノ適否、成功ノ確否、募集ノ區域及期間ノ當否ハ勿論出願人ノ性行如何等ニ至ル迄慎重ノ調査ヲ加ヘタル上許可ニ關スル詳細ノ意見ヲ具シ御進達相成度依命此段及通牒候也

明治四十四年七月二十五日印刷

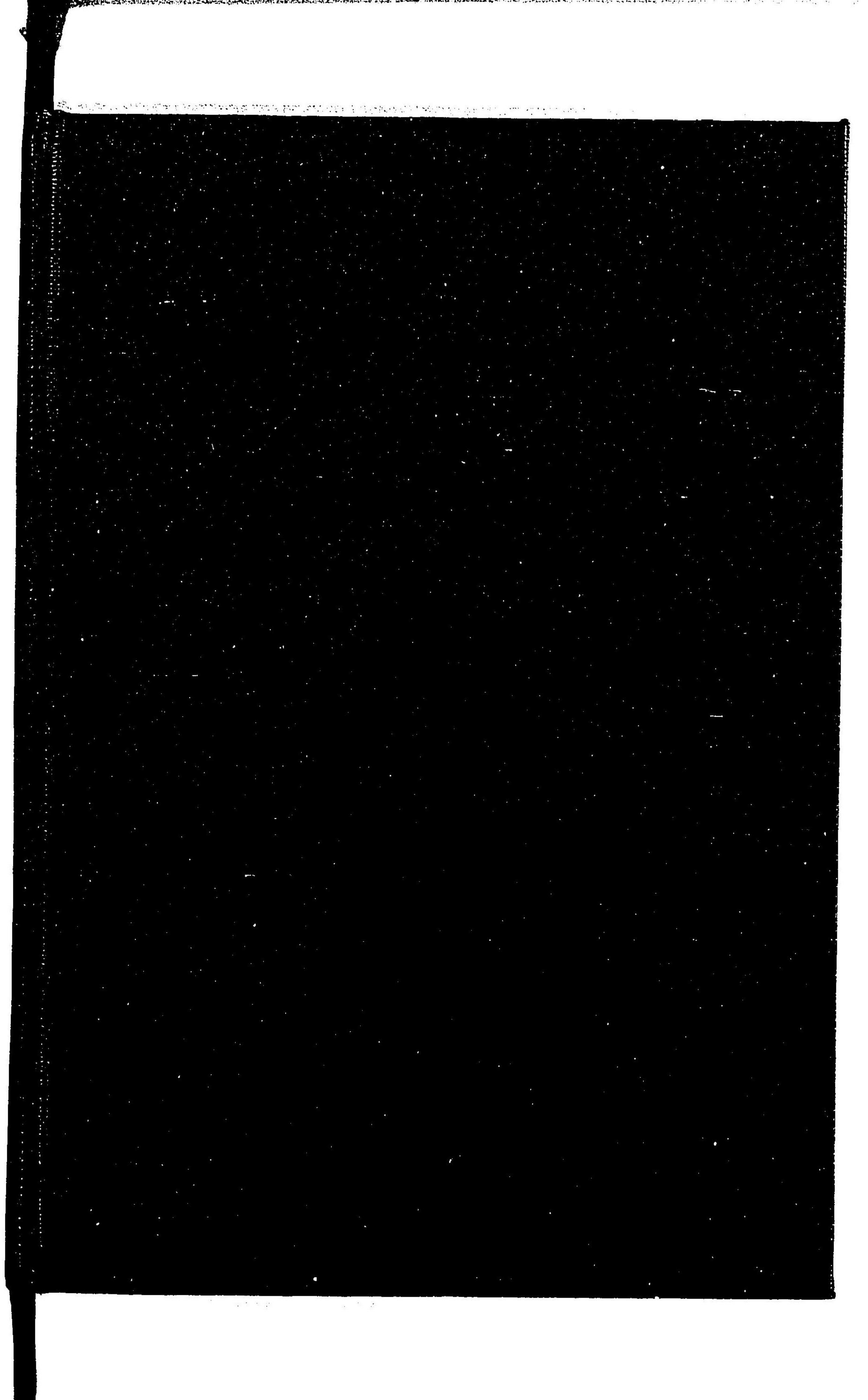
明治四十四年七月三十日發行

青森縣内務部

東京市日本橋區數寄屋町一番地

印刷者 田山宗堯

47792



禁電子式複写

031162-000-9

CZ-1113-13-02

青森県例規 上巻

青森県内務部

M44

BBD-0026



